

(仮称)「南房総市地域福祉計画・地域福祉活動計画」策定

基礎調査報告書

令和元年6月

南房総市/社会福祉法人 南房総市社会福祉協議会

目次

第Ⅰ編 市民アンケート調査

第1章 調査の概要等	3
第2章 調査結果の説明	7
第3章 資料（調査票）	43

第Ⅱ編 地区別 / 福祉関係団体意見交換会

第1章 調査の概要等	63
第2章 開催結果のまとめ	67
第3章 資料（「団体意見交換会」事前アンケート調査結果）	77

第Ⅲ編 当事者団体ヒアリング

第1章 調査の概要等	99
第2章 開催結果のまとめ	105

第Ⅳ編 各調査結果からの課題のまとめ

課題のまとめ	111
--------	-----

第

I

編

市民アンケート調査

第1章 調査の概要等

第1章 調査の概要等

1 調査の目的

『(仮称)南房総市地域福祉計画・地域福祉活動計画』の策定に向け、その一環として市民が「地域」の中でどのような暮らしを送りどのような考えを持っているのか等について把握して、計画へ反映させることを目的とする。

2 調査の方法

- ・調査区域：市内全域
- ・調査対象：18歳以上の市民
- ・抽出方法：無作為抽出
- ・実施方法：郵送配付－郵送回収法
- ・実施時期：平成30年11月下旬～12月7日（金）

3 回収結果

対象者数	有効回収数	有効回収率
1,500人	877票	58.5%

4 第I編を読む際の留意点

- アンケート選択肢の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いていることがある。
- 表・グラフ中、整数は回答者数(単位:人)を、小数第1位までの数値は百分率(単位:%)を、それぞれ表している。
- 調査結果の比率は、その質問の回答者数を基数(n)として、小数第2位を四捨五入して算出している。そのため、単数回答形式の回答の合計が100%にならない場合がある。
また、nが100に満たない場合は百分率(%)を用いて分析を行うことが統計的に正しくないため、分析は実数を用いて行っており、グラフのかわりに表を掲載してその実数が分かるようにしている。
- 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常100%を超える。
- 年齢等“クロス集計”の表中においては通常、当該項目(年齢など)に関する無回答者がいる関係で、各クロス項目(年齢など)ごとの回答数を足し上げた結果と全体回答者数は、一致しない。

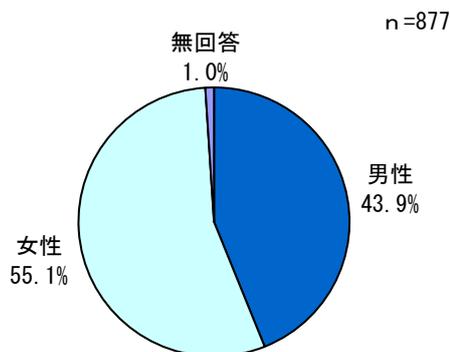
第2章 調査結果の説明

第2章 調査結果の説明

I 対象者自身について

ア 性別（1つに○）

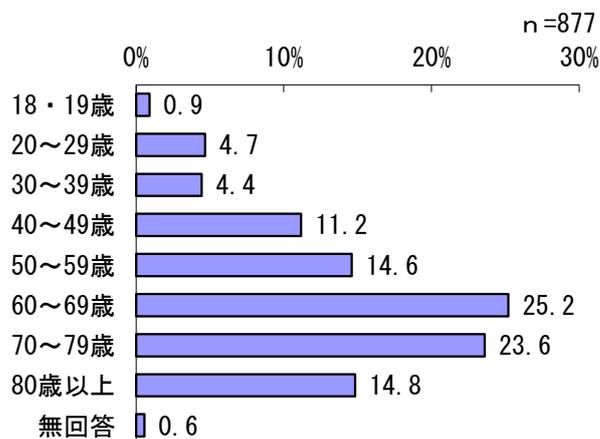
○男性が43.9%、女性が55.1%で、女性がやや多くなっています。



イ 年齢（※平成30年11月1日現在）（1つに○）

○「60～69歳」（25.2%）が最も多く、4分の1を少し超えています。次いで「70～79歳」（23.6%）が多く、「80歳以上」（14.8%）、「50～59歳」（14.6%）が続いています。

60歳以上の層で6割強を占めています。



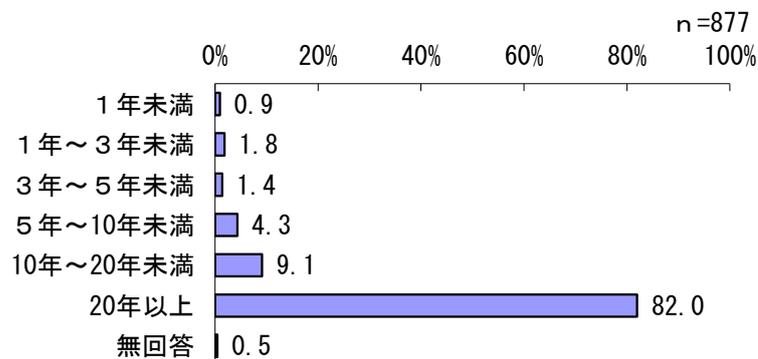
ウ お住まいの地区（1つに○）

○「千倉」（25.4%）が最も多く、「富山」（14.1%）、「富浦」（13.1%）・「丸山」（12.2%）等の順で続いています。



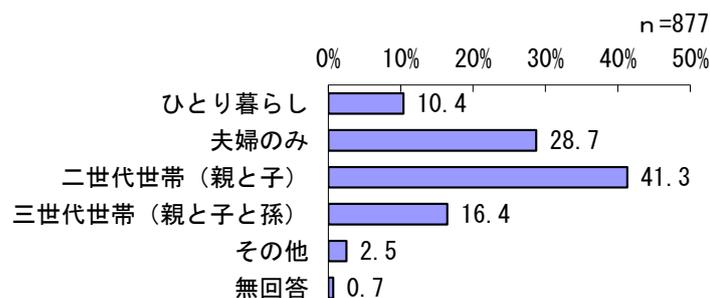
エ 南房総市に、通算して何年住んでいますか。（1つに○）

○「20年以上」（82.0%）という回答が圧倒的に多く、次いで多い「10年～20年未満」（9.1%）を含めると、9割以上が10年以上住んでいることが分かります。



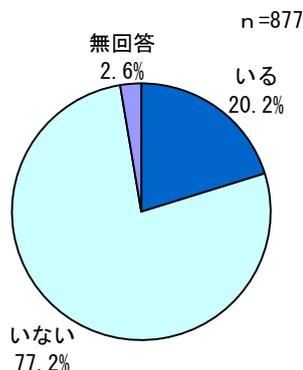
オ 家族構成（1つに○）

○「二世世代世帯（親と子）」（41.3%）という回答が4割を超えて最も多く、次いで「夫婦のみ」（28.7%）が多く、「三世世代世帯（親と子と孫）」（16.4%）が続いています。



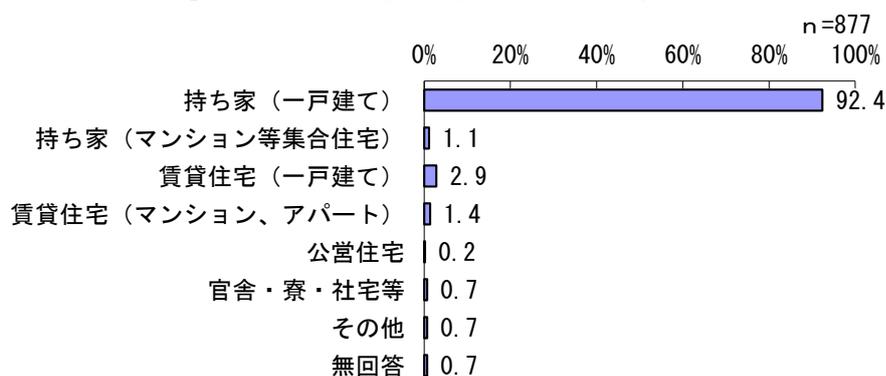
カ 同居している家族に、介護・支援が必要な方がいますか。(1つに○)

○「いる」(20.2%)が約2割、「いない」(77.2%)が7割台後半で、「いない」が「いる」を大きく上回っています。



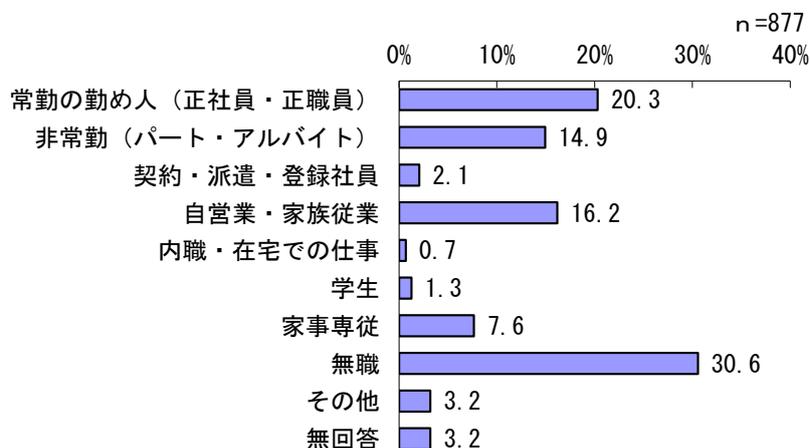
キ お住まいは、次のどれにあたりますか。(1つに○)

○「持ち家(一戸建て)」(92.4%)が9割を超えて圧倒的に多く、次いで「賃貸住宅(マンション、アパート)」(2.9%)が多くなっています。



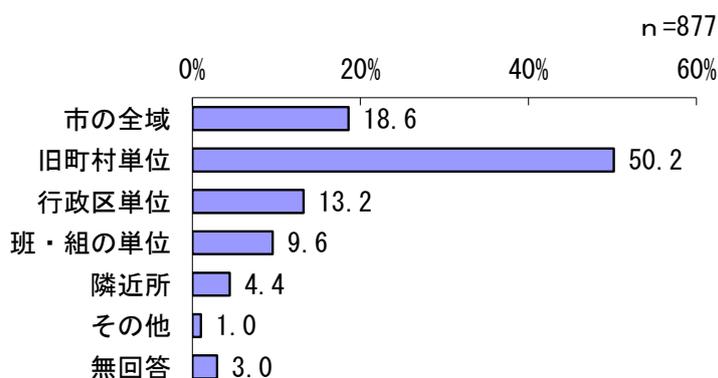
ク 職業(1つに○)

○「無職」(30.6%)という回答が最も多く、次いで多い「常勤の勤め人(正社員・正職員)」(20.3%)を合わせると、過半数に達します。その後、「自営業・家族従業」(16.2%)、「非常勤(パート・アルバイト)」(14.9%)が続いています。



ケ あなたにとって「地域」とは、どの範囲のことだと思いますか。(1つに○)

○「旧町村単位」(50.2%)という回答が過半数に達して最も多く、次いで「市の全域」(18.6%)が多くなっています。



【年齢別、居住地区別】

○年齢別でみると、「市の全域」の回答割合が、40歳代以下の層では2割台から3割台と比較的多くなっているのに対して、50歳代以上では1割台となっています。

居住地区別では、富浦、白浜、丸山地区で「市の全域」が2割台で、若干多くなっています。

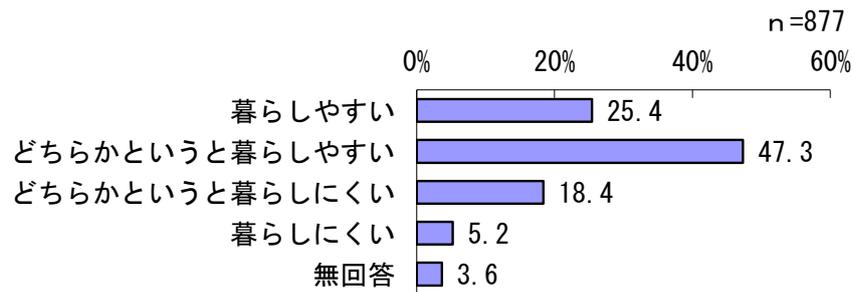
	合計	市の全域	旧町村単位	行政区単位	班・組の単位	隣近所	その他	無回答
全体	877	163	440	116	84	39	9	26
	100.0	18.6	50.2	13.2	9.6	4.4	1.0	3.0
18・19歳	8	3	3	2	0	0	0	0
	100.0	37.5	37.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～29歳	41	14	18	5	1	2	0	1
	100.0	34.1	43.9	12.2	2.4	4.9	0.0	2.4
30～39歳	39	10	24	3	1	0	1	0
	100.0	25.6	61.5	7.7	2.6	0.0	2.6	0.0
40～49歳	98	36	48	4	8	1	0	1
	100.0	36.7	49.0	4.1	8.2	1.0	0.0	1.0
50～59歳	128	19	78	15	7	5	3	1
	100.0	14.8	60.9	11.7	5.5	3.9	2.3	0.8
60～69歳	221	30	118	38	25	4	3	3
	100.0	13.6	53.4	17.2	11.3	1.8	1.4	1.4
70～79歳	207	37	94	33	20	10	2	11
	100.0	17.9	45.4	15.9	9.7	4.8	1.0	5.3
80歳以上	130	14	56	16	22	15	0	7
	100.0	10.8	43.1	12.3	16.9	11.5	0.0	5.4
富浦	115	23	54	15	15	3	2	3
	100.0	20.0	47.0	13.0	13.0	2.6	1.7	2.6
富山	124	17	68	16	12	7	0	4
	100.0	13.7	54.8	12.9	9.7	5.6	0.0	3.2
三芳	95	18	53	7	14	3	0	0
	100.0	18.9	55.8	7.4	14.7	3.2	0.0	0.0
白浜	102	22	54	8	6	6	0	6
	100.0	21.6	52.9	7.8	5.9	5.9	0.0	5.9
千倉	223	40	105	34	25	9	4	6
	100.0	17.9	47.1	15.2	11.2	4.0	1.8	2.7
丸山	107	25	57	14	5	4	0	2
	100.0	23.4	53.3	13.1	4.7	3.7	0.0	1.9
和田	104	18	47	20	6	7	3	3
	100.0	17.3	45.2	19.2	5.8	6.7	2.9	2.9

II 居住している地域の状況について

◆居住中の「地域」の暮らしやすさ（問1）

問1 あなたがお住まいの「地域」（先問の「ケ」の回答）は暮らしやすいですか。（1つに○）

○「どちらかという暮らしやすい」（47.3%）という回答が最も多く、次いで多い「暮らしやすい」（25.4%）も合わせた“一定以上暮らしやすい”の割合は72.7%と、7割を超えています。

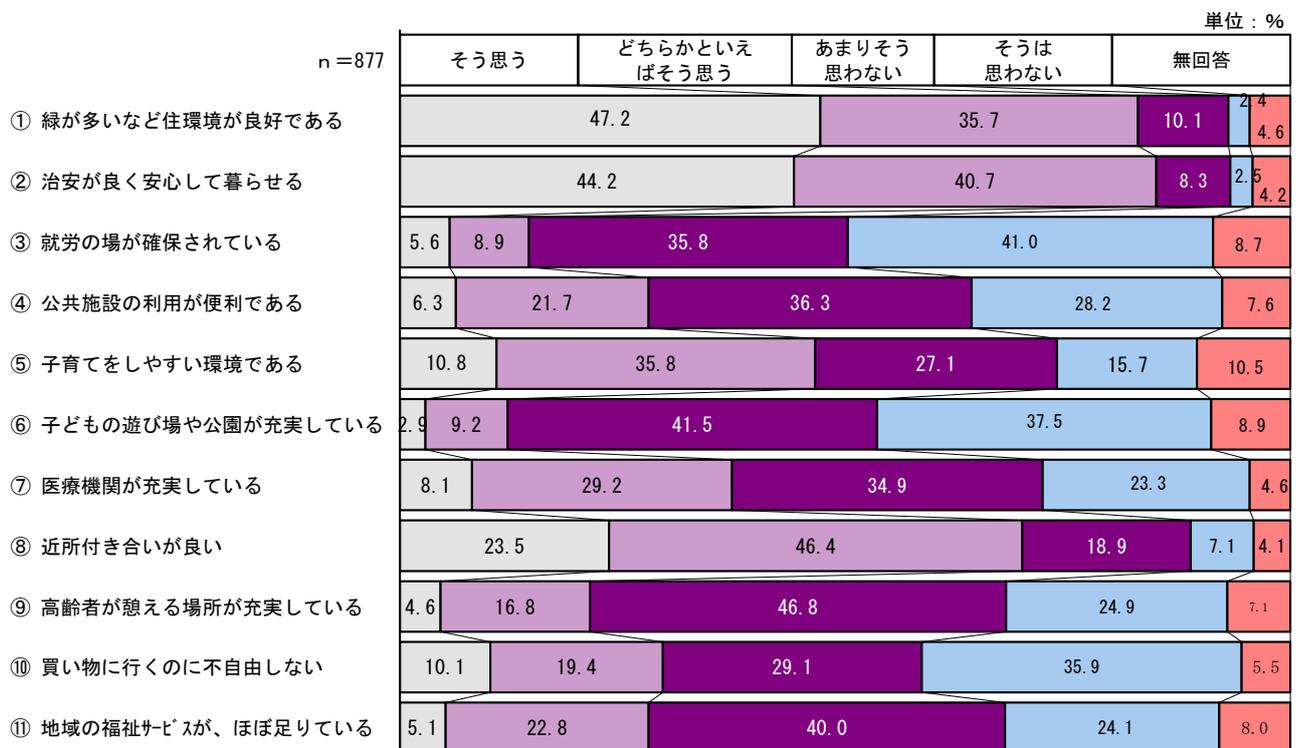


◆居住地域の生活環境について（問2）

問2 お住まいの地域の生活環境について、どう思いますか。（①～⑪につき、それぞれ1つずつに○）

○「そう思う」という回答が4割を超えて最も多くなっているのが、“住環境が良好である”と“治安良好で安心して暮らせる”で、「どちらかといえばそう思う」が4割台（46.4%）で最も多いのが“近所付き合いが良い”です。

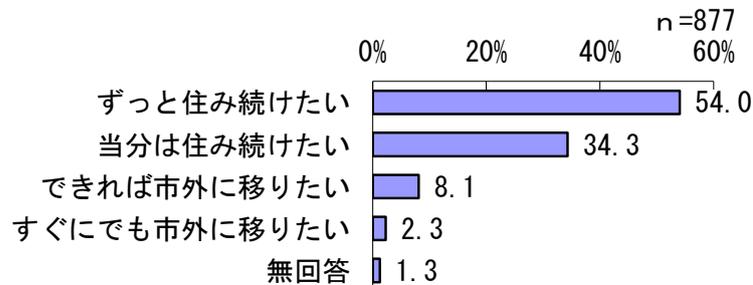
「そうは思わない」が最も多く4割台（41.0%）を占めているのは“就労の場が確保されている”で、「あまりそう思わない」が最も多く4割台なのは“高齢者が憩える場所が充実”、“子どもの遊び場や公園が充実”、“地域の福祉サービスがほぼ足りている”となっています。



◆居住地域での今後の居住継続意向（問3）

問3 お住まいの地域に、今後も住みたいですか。（1つに○）

○「ずっと住みたい」（54.0%）という回答が最も多く、次いで多い「当分は住みたい」（34.3%）を合わせると“現時点では住みたい”が88.3%となり、9割近くを占めています。



【居住地区別】

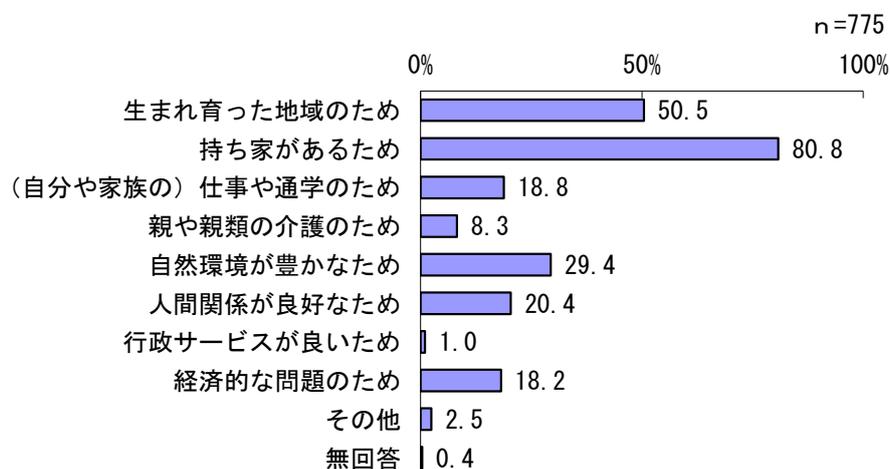
○居住地区別でみると、「できれば市外に移りたい」と「すぐにでも市外に移りたい」の回答割合の合計が、三芳、丸山、和田地区で比較的少なく、1割未満となっています。

	合計	ずっと住 み続けた い	当分は住 み続けた い	できれば 市外に移 りたい	すぐにで も市外に 移りたい	無回答
全体	877 100.0	474 54.0	301 34.3	71 8.1	20 2.3	11 1.3
富浦	115 100.0	65 56.5	34 29.6	12 10.4	2 1.7	2 1.7
富山	124 100.0	67 54.0	43 34.7	11 8.9	2 1.6	1 0.8
三芳	95 100.0	48 50.5	38 40.0	6 6.3	3 3.2	0 0.0
白浜	102 100.0	50 49.0	38 37.3	9 8.8	4 3.9	1 1.0
千倉	223 100.0	114 51.1	80 35.9	20 9.0	5 2.2	4 1.8
丸山	107 100.0	65 60.7	34 31.8	7 6.5	1 0.9	0 0.0
和田	104 100.0	63 60.6	33 31.7	6 5.8	2 1.9	0 0.0

◆市内に住み続けたい理由（問4）

問4 問3で「1 ずっと住み続けたい」「2 当分は住み続けたい」と答えた方がお答えください。住み続けたい理由は、次のどれですか。（3つまでに○）

○「持ち家があるため」（80.8%）という回答が最も多く、次いで「生まれ育った地域のため」（50.5%）が多くなっています。



◆市外に移りたい理由（問5）

問5 問3で「3 できれば市外に移りたい」「4 すぐにでも市外に移りたい」と答えた方がお答えください。市外に移りたい理由は、次のどれですか。（3つまでに○）

○「日常生活が不便なため」（91人中60人）という回答が最も多く、次いで「人間関係がわずらわしいため」（同32人）が多くなっています。

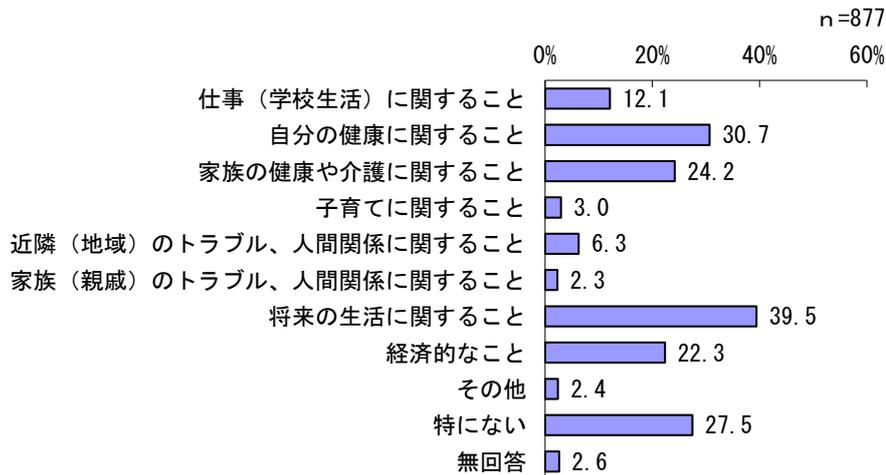
No.	選択肢	n	%
1	(自分や家族の) 仕事や通学のため	16	17.6
2	住宅に不満(老朽化)があるため	18	19.8
3	日常生活が不便なため	60	65.9
4	親や親類の介護のため	7	7.7
5	人間関係がわずらわしいため	32	35.2
6	人付き合いがないため	7	7.7
7	行政サービスが使いにくい	20	22.0
8	経済的な問題のため	15	16.5
9	その他	9	9.9
	無回答	0	0.0
	全体	91	100.0
	非該当	786	

Ⅲ 日常生活で困っていることについて

◆日常生活での困りごとなど（問6）

問6 日常生活の中で困っていること、悩みを感じていることは、次のどれですか。（3つまでに○）

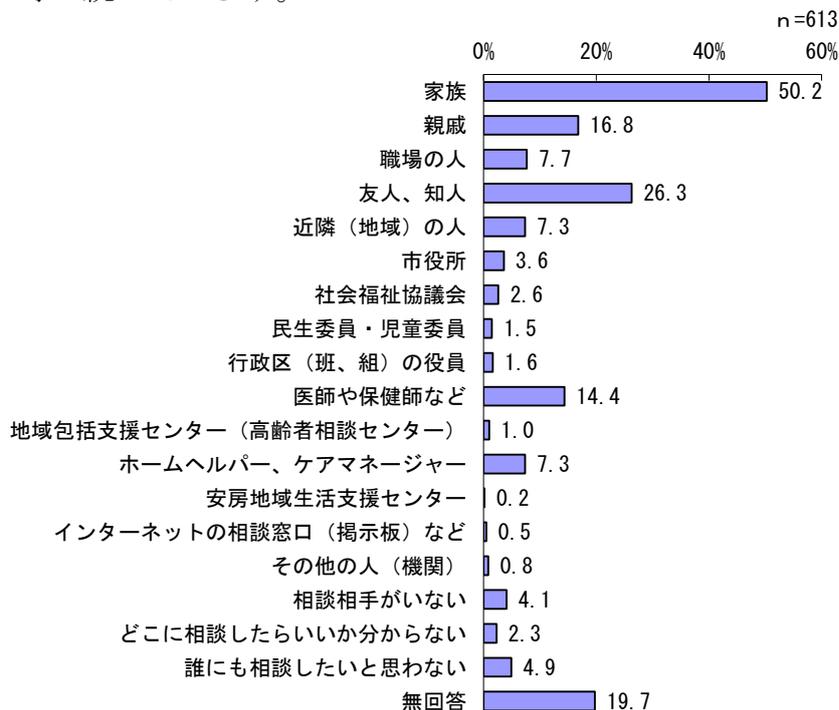
○「将来の生活に関すること」（39.5%）という回答が最も多く、次いで「自分の健康に関すること」（30.7%）が多くなっています。



◆困りごとや悩みの相談先（問7）

問7 「問6」で「10 特にない」と答えた方以外の方がお答えください。問6で回答した困っていることや悩みを、誰（どこ）に相談していますか。（あてはまるものすべてに○）

○「家族」（50.2%）という回答が過半数で最も多く、「友人、知人」（26.3%）、「無回答」（19.7%）等が続いています。

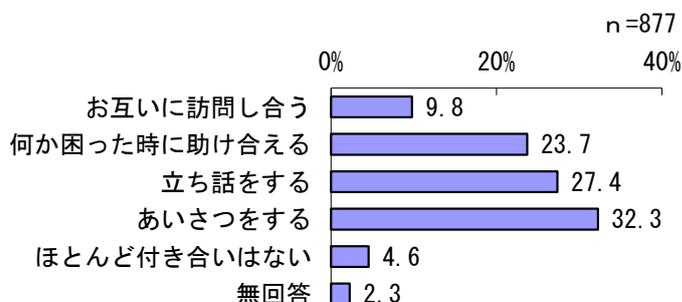


IV ご近所付き合いについて

◆ご近所との付き合いの程度（問8）

問8 ご近所との付き合いは、どの程度していますか。（1つに○）

○「あいさつをする」（32.3%）という回答が最も多く、次いで「立ち話をする」（27.4%）が多くなっています。



【年齢別、居住地区別】

○年齢別でみると、50歳代までは「あいさつをする」が最も多いのに対し、60歳代以上では「立ち話をする」が最も多くなっています。

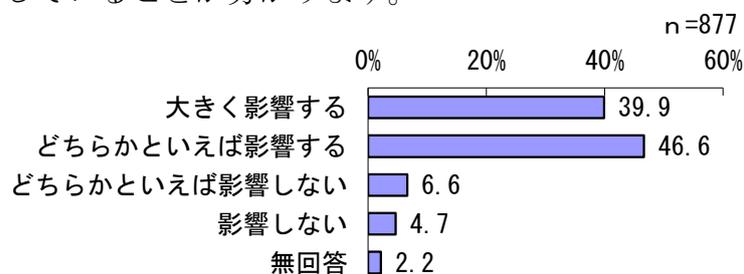
居住地区別では、他地区では「あいさつをする」か「立ち話をする」が最も多いですが、富山地区では「何か困った時に助け合える」が最も多くなっています。

	合計	お互いに訪問し合う	何か困った時に助け合える	立ち話をする	あいさつをする	ほとんど付き合いはない	無回答
全体	877	86	208	240	283	40	20
	100.0	9.8	23.7	27.4	32.3	4.6	2.3
18・19歳	8	0	2	0	4	0	2
	100.0	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0	25.0
20～29歳	41	1	6	9	19	5	1
	100.0	2.4	14.6	22.0	46.3	12.2	2.4
30～39歳	39	3	11	7	16	2	0
	100.0	7.7	28.2	17.9	41.0	5.1	0.0
40～49歳	98	6	21	22	46	3	0
	100.0	6.1	21.4	22.4	46.9	3.1	0.0
50～59歳	128	3	24	37	56	6	2
	100.0	2.3	18.8	28.9	43.8	4.7	1.6
60～69歳	221	25	61	62	57	13	3
	100.0	11.3	27.6	28.1	25.8	5.9	1.4
70～79歳	207	23	50	67	56	6	5
	100.0	11.1	24.2	32.4	27.1	2.9	2.4
80歳以上	130	24	33	36	27	5	5
	100.0	18.5	25.4	27.7	20.8	3.8	3.8
富浦	115	11	18	41	34	7	4
	100.0	9.6	15.7	35.7	29.6	6.1	3.5
富山	124	10	47	26	33	6	2
	100.0	8.1	37.9	21.0	26.6	4.8	1.6
三芳	95	8	21	32	32	2	0
	100.0	8.4	22.1	33.7	33.7	2.1	0.0
白浜	102	9	29	32	30	1	1
	100.0	8.8	28.4	31.4	29.4	1.0	1.0
千倉	223	18	42	61	83	14	5
	100.0	8.1	18.8	27.4	37.2	6.3	2.2
丸山	107	13	28	24	36	3	3
	100.0	12.1	26.2	22.4	33.6	2.8	2.8
和田	104	17	22	24	33	6	2
	100.0	16.3	21.2	23.1	31.7	5.8	1.9

◆近所付き合いの地域の暮らしやすさへの影響（問9）

問9 ご近所付き合いは、地域の暮らしやすさに影響すると思いますか。（1つに○）

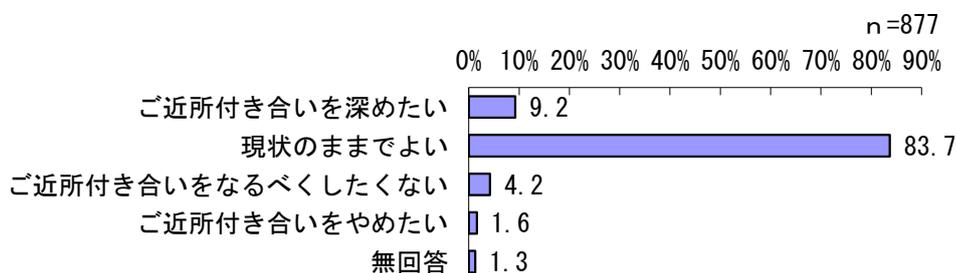
- 「どちらかといえば影響する」（46.6%）という回答が最も多く、次いで多い「大きく影響する」（39.9%）も合わせると86.5%と、8割台半ばの人が“一定程度以上影響する”と回答していることが分かります。



◆近所付き合いに関する今後の希望（問10）

問10 ご近所付き合いの関係を、今後どうしていきたいですか。（1つに○）

- 「現状のままでよい」（83.7%）という回答が8割台に達して圧倒的に多く、次いで「ご近所付き合いを深めたい」（9.2%）が1割弱で多くなっています。

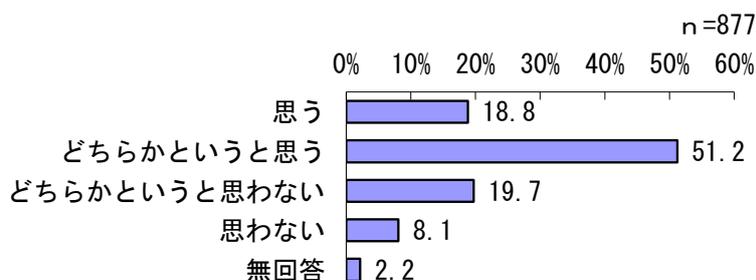


V 支え合い・助け合いについて

◆住民同士の支え合いの有無（問 11）

問 11 お住まいの地域では、住民同士の支え合いが行われていると思いますか。（1つに○）

○「どちらかというと思う」（51.2%）という回答が過半数で最も多く、「どちらかというと思わない」（19.7%）、「思う」（18.8%）、「思わない」（8.1%）の順で続いています。



【居住地区別】

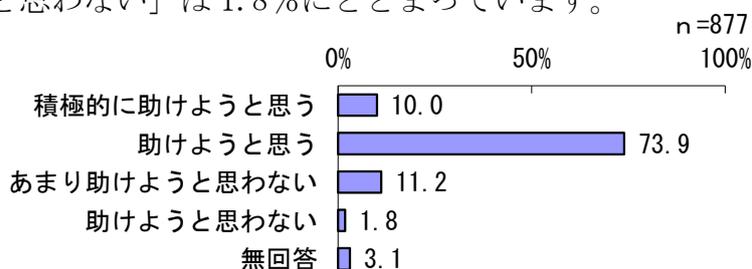
○居住地区別でみると、三芳・丸山両地区で「思う」が4分の1を超え、多くなっています。

	合計	思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない	無回答
全体	877	165	449	173	71	19
	100.0	18.8	51.2	19.7	8.1	2.2
富浦	115	14	66	21	10	4
	100.0	12.2	57.4	18.3	8.7	3.5
富山	124	26	62	27	8	1
	100.0	21.0	50.0	21.8	6.5	0.8
三芳	95	25	44	19	7	0
	100.0	26.3	46.3	20.0	7.4	0.0
白浜	102	22	54	19	6	1
	100.0	21.6	52.9	18.6	5.9	1.0
千倉	223	38	107	44	29	5
	100.0	17.0	48.0	19.7	13.0	2.2
丸山	107	28	55	20	3	1
	100.0	26.2	51.4	18.7	2.8	0.9
和田	104	12	59	20	8	5
	100.0	11.5	56.7	19.2	7.7	4.8

◆地域で困っている人がいたら助けようと思うか（問12）

問12 地域で困っている人がいたら、助けようと思いますか。（1つに○）

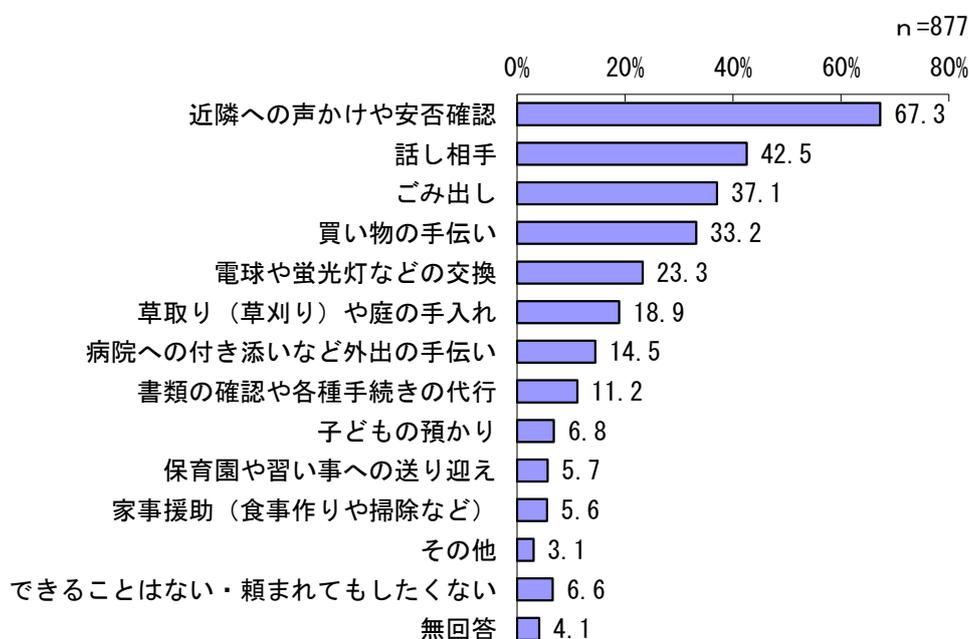
- 「助けようと思う」（73.9%）という回答が7割台に達して圧倒的に多く、「あまり助けようと思わない」（11.2%）、「積極的に助けようと思う」（10.0%）が続いています。「助けようと思わない」は1.8%にとどまっています。



◆地域で困っている人にできると思うこと（問13）

問13 地域に困っている人がいた場合、「頼まれ」たらできると思うことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

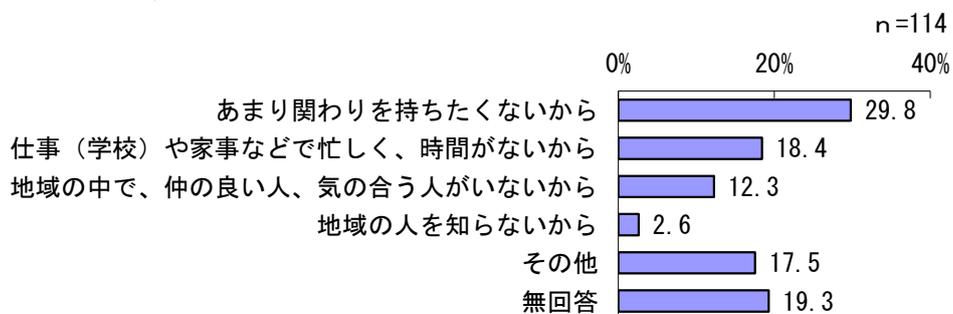
- 「近隣への声かけや安否確認」（67.3%）という回答が最も多く、次いで「話し相手」（42.5%）が多く、「ごみ出し」（37.1%）、「買い物の手伝い」（33.2%）が続いています。



◆助けようと思わない理由（問 14）

問 14 問 12 で「3 あまり助けようと思わない」「4 助けようと思わない」と答えた方が
お答えください。（あまり）助けようと思わない理由は何ですか。（1つに○）

- 「あまり関わりを持ちたくないから」（29.8%）という回答がほぼ3割で最も多く、
「無回答」（19.3%）、「仕事（学校）や家事などで忙しく、時間がないから」（18.4%）
等が続いています。



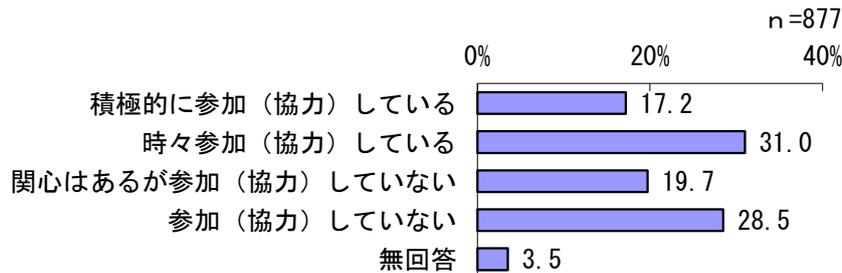
VI 地域活動（ボランティア活動を含む）について

◆地域活動等への参加状況（問15）

問15 地域の行事や活動（※ボランティア活動を含む）に参加していますか。（1つに○）

○「時々参加（協力）している」（31.0%）という回答が最も多く、次いで「参加（協力）していない」（28.5%）が多くなっています。

「積極的に」と「時々」を合わせた“参加（協力）派”が48.2%、関心の有無にかかわらず“非参加（協力）派”も48.2%で、同率となっています。



【男女別、年齢別、居住地区別】

	合計	積極的に参加（協力）している	時々参加（協力）している	関心はあるが参加（協力）していない	参加（協力）していない	無回答
全体	877	151	272	173	250	31
	100.0	17.2	31.0	19.7	28.5	3.5
男性	385	87	135	63	86	14
	100.0	22.6	35.1	16.4	22.3	3.6
女性	483	63	136	109	161	14
	100.0	13.0	28.2	22.6	33.3	2.9
18・19歳	8	0	2	2	4	0
	100.0	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0
20～29歳	41	3	10	10	18	0
	100.0	7.3	24.4	24.4	43.9	0.0
30～39歳	39	6	12	8	13	0
	100.0	15.4	30.8	20.5	33.3	0.0
40～49歳	98	12	40	15	30	1
	100.0	12.2	40.8	15.3	30.6	1.0
50～59歳	128	27	37	22	40	2
	100.0	21.1	28.9	17.2	31.3	1.6
60～69歳	221	48	77	39	55	2
	100.0	21.7	34.8	17.6	24.9	0.9
70～79歳	207	39	59	57	42	10
	100.0	18.8	28.5	27.5	20.3	4.8
80歳以上	130	16	35	18	47	14
	100.0	12.3	26.9	13.8	36.2	10.8
富浦	115	25	23	33	30	4
	100.0	21.7	20.0	28.7	26.1	3.5
富山	124	13	44	24	40	3
	100.0	10.5	35.5	19.4	32.3	2.4
三芳	95	24	29	18	24	0
	100.0	25.3	30.5	18.9	25.3	0.0
白浜	102	25	26	26	22	3
	100.0	24.5	25.5	25.5	21.6	2.9
千倉	223	33	68	38	73	11
	100.0	14.8	30.5	17.0	32.7	4.9
丸山	107	11	44	21	29	2
	100.0	10.3	41.1	19.6	27.1	1.9
和田	104	20	37	11	30	6
	100.0	19.2	35.6	10.6	28.8	5.8

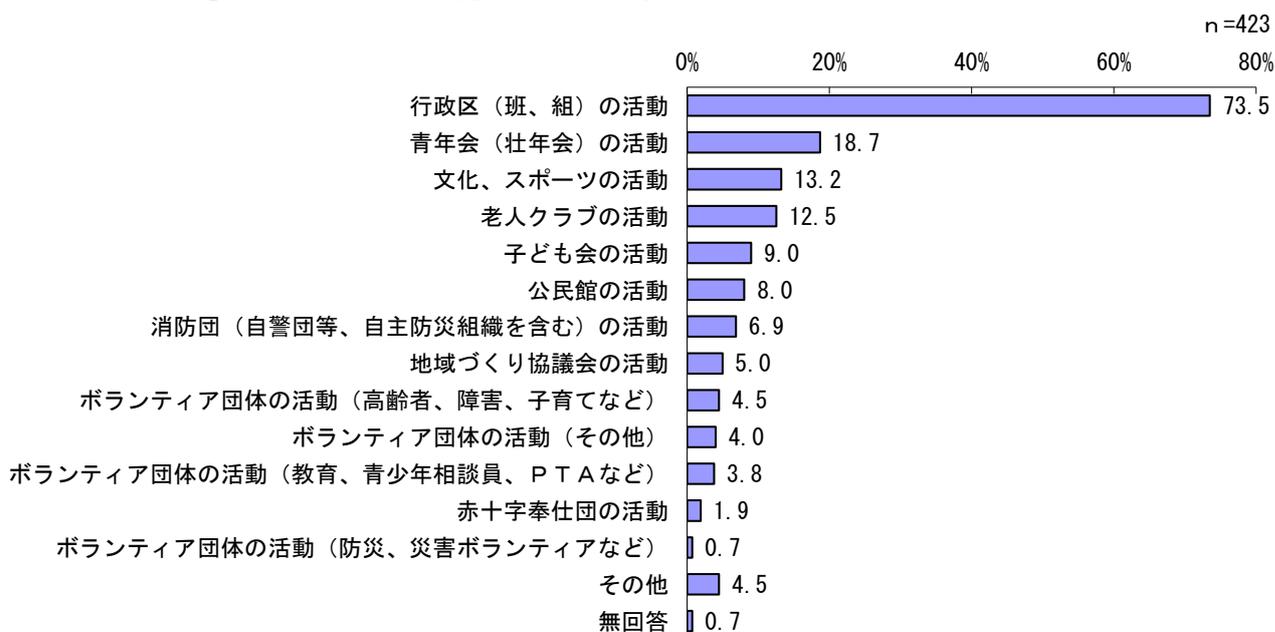
○男女別では、“参加（協力）派”の割合が男性で57.7%、女性で41.2%で、男性が女性を15ポイント以上上回っています。

年齢別では、50歳代と60歳代で「積極的に参加（協力）している」が2割を超え、比較的多くなっています。居住地区別でみると、富山、三芳、丸山、和田の各地区では「時々参加（協力）している」が、富浦地区では「関心はあるが参加（協力）していない」が、千倉地区では「参加（協力）していない」が、それぞれ最も多くなっています。また、白浜地区では「時々参加（協力）している」と「関心はあるが参加（協力）していない」が最も多くなっています。

◆参加（協力）している地域活動等（問16）

問16 問15で「1 積極的に参加（協力）している」「2 時々参加（協力）している」と答えた方がお答えください。それはどのような活動ですか。（あてはまるものすべてに○）

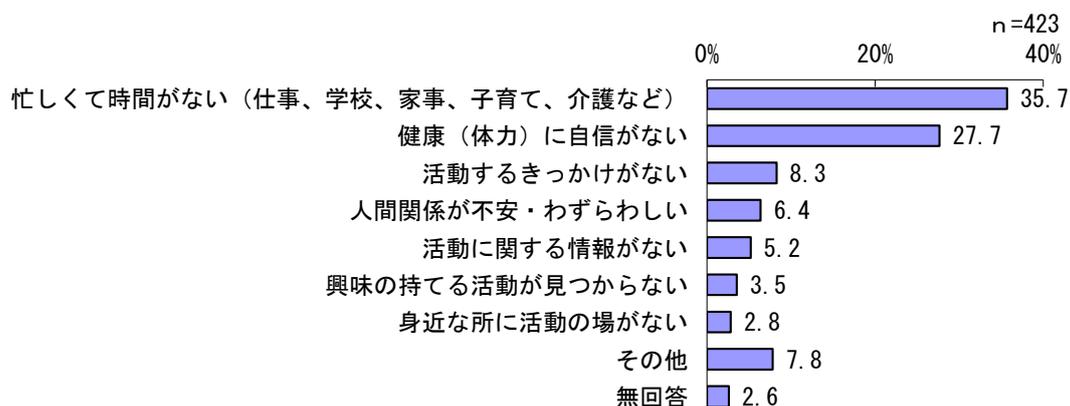
○「行政区（班、組）の活動」（73.5%）という回答が7割を超えて圧倒的に多く、「青年会（壮年会）の活動」（18.7%）、「文化、スポーツの活動」（13.2%）、「老人クラブの活動」（12.5%）等が続いています。



◆参加（協力）していない理由（問17）

問17 問15で「3 関心はあるが参加（協力）していない」「4 参加（協力）していない」と答えた方がお答えください。参加（協力）されない理由は何ですか。（1つに○）

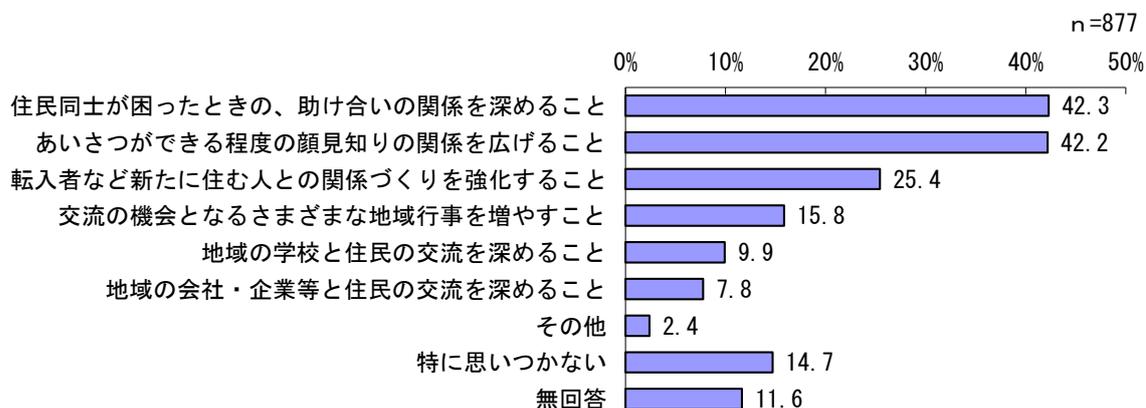
○「忙しくて時間がない（仕事、学校、家事、子育て、介護など）」（35.7%）という回答が最も多く、次いで「健康（体力）に自信がない」（27.7%）が多くなっています。



◆地域活動等の活発化のために大切と思うこと（問 18）

問 18 問 16 で挙げたような活動が、地域でもっと活発に行われるためには、何が大切だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

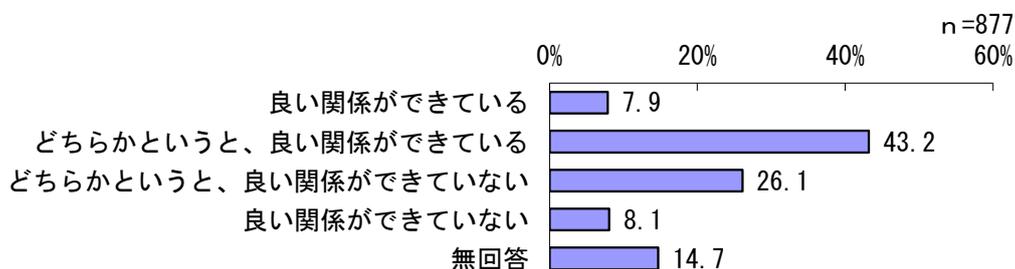
○「住民同士が困ったときの、助け合いの関係を深めること」（42.3%）、「あいさつができる程度の顔見知りの関係を広げること」（42.2%）という回答が多くなっています。



◆地域福祉に関する住民と市役所との「協働」の関係について（問 19）

問 19 現在の、地域福祉に関する住民と市役所との「協働」の関係（一緒に作り上げる関係）について、どう思いますか。（1つに○）

○「どちらかという、良い関係ができている」（43.2%）という回答が最も多く、次いで「どちらかという、良い関係ができていない」（26.1%）が多くなっています。どちらかという、も合わせ「良い関係ができている」とした“肯定派”は51.1%、「良い関係ができていない」とした“否定派”は34.2%で、肯定派が否定派を15ポイント以上上回っています。

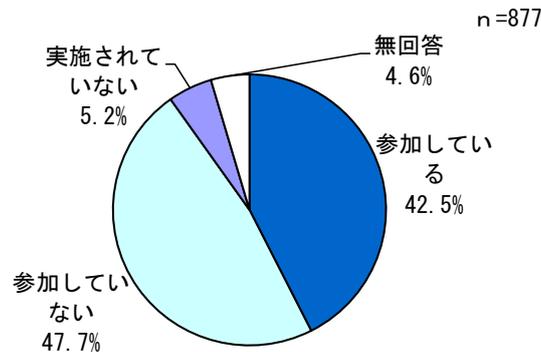


VII 防災について

◆地域の防災訓練（防災行事）への参加状況（問 20）

問 20 地域の防災訓練（防災行事）に参加していますか。（1つに○）

○「参加している」が42.5%、「参加していない」が47.7%で、「参加していない」が約5%多くなっています。



【年齢別、居住地区別】

○年齢別で見ると、60歳代と70歳代で「参加している」が4割を超えて比較的多く、「参加していない」を上回っています。

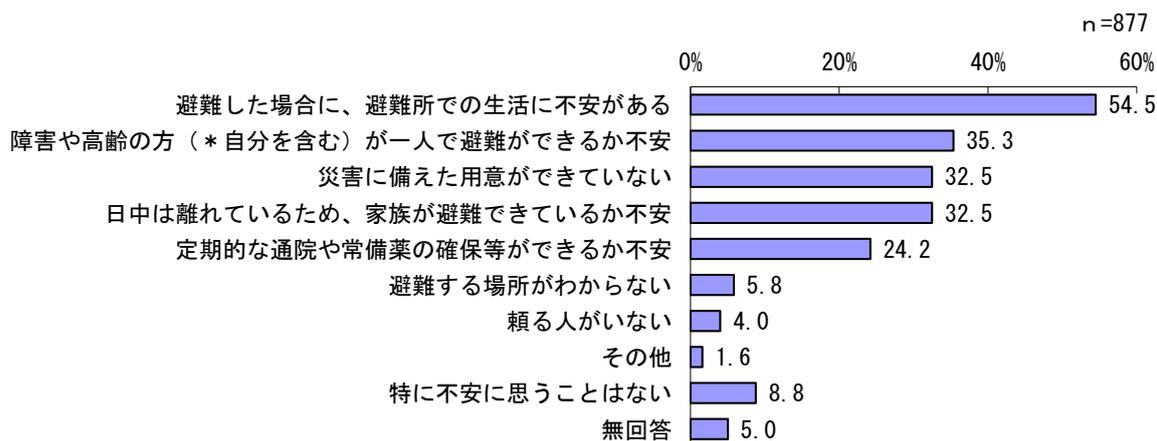
居住地区別では、富浦、白浜、千倉の各地区で「参加している」が多く、「参加していない」を上回っています。また、丸山地区では「実施されていない」とした回答が18.7%と、2割弱みられます。

	合計	参加している	参加していない	実施されていない	無回答
全体	877	373	418	46	40
	100.0	42.5	47.7	5.2	4.6
18・19歳	8	2	4	2	0
	100.0	25.0	50.0	25.0	0.0
20～29歳	41	10	30	0	1
	100.0	24.4	73.2	0.0	2.4
30～39歳	39	16	19	4	0
	100.0	41.0	48.7	10.3	0.0
40～49歳	98	35	57	4	2
	100.0	35.7	58.2	4.1	2.0
50～59歳	128	51	65	5	7
	100.0	39.8	50.8	3.9	5.5
60～69歳	221	109	90	14	8
	100.0	49.3	40.7	6.3	3.6
70～79歳	207	107	80	10	10
	100.0	51.7	38.6	4.8	4.8
80歳以上	130	42	71	7	10
	100.0	32.3	54.6	5.4	7.7
富浦	115	75	35	0	5
	100.0	65.2	30.4	0.0	4.3
富山	124	45	69	4	6
	100.0	36.3	55.6	3.2	4.8
三芳	95	22	61	7	5
	100.0	23.2	64.2	7.4	5.3
白浜	102	66	32	1	3
	100.0	64.7	31.4	1.0	2.9
千倉	223	121	90	6	6
	100.0	54.3	40.4	2.7	2.7
丸山	107	19	60	20	8
	100.0	17.8	56.1	18.7	7.5
和田	104	25	67	8	4
	100.0	24.0	64.4	7.7	3.8

◆災害発生時に関して不安に思うこと（問 21）

問 21 災害が起きた場合について不安に思うことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

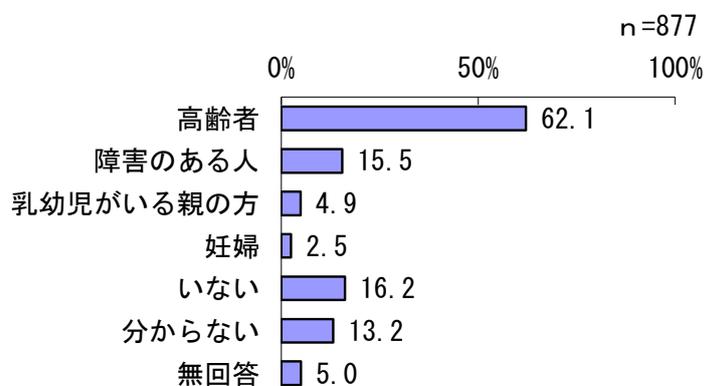
- 「避難した場合に、避難所での生活に不安がある」（54.5%）という回答が過半数で最も多く、「障害や高齢の方（*自分を含む）が一人で避難ができるか不安」（35.3%）、「災害に備えた用意ができていない」と「日中は離れているため、家族が避難できているか不安」（ともに 32.5%）の順で続いています。



◆災害時避難要支援者の有無（問 22）

問 22 ご近所に、災害が起きたら避難支援が必要と思われる方はいますか。また、いる場合、それはどのような方ですか。（あてはまるものすべてに○）

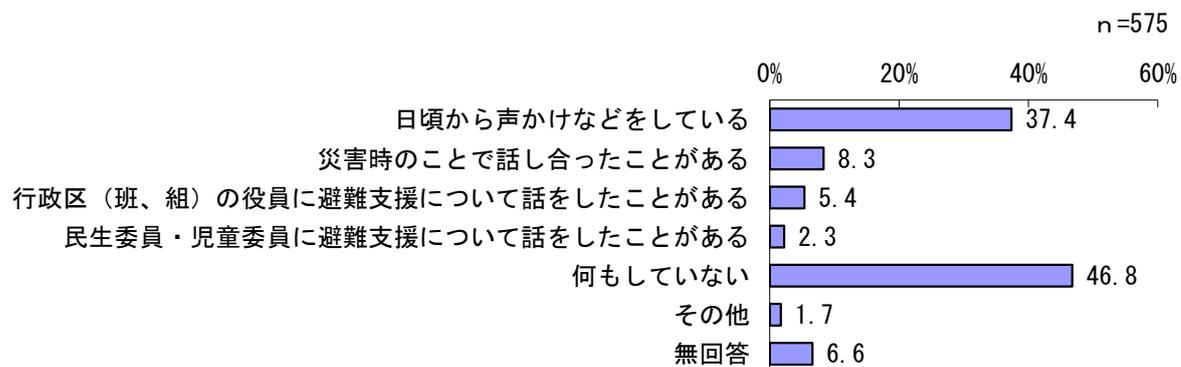
- 「高齢者」（62.1%）という回答が最も多く、「いない」（16.2%）、「障害のある人」（15.5%）、「分からない」（13.2%）が続いています。



◆実際に支援行動をした内容（問 23）

問 23 問 22 で「1 高齢者」～「4 妊婦」と答えた方がお答えください。その人たちに対して、何か支援の行動をしたことはありますか。また、ある場合、それはどのようなことでしたか。（あてはまるものすべてに○）

○「何もしていない」（46.8%）という回答が最も多く、次いで「日頃から声かけなどをしている」（37.4%）が多くなっています。

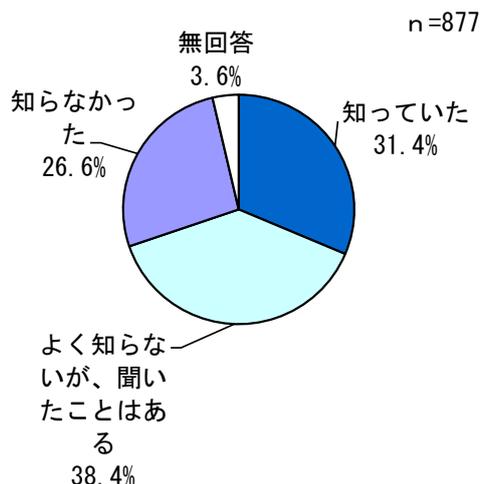


VII 「成年後見制度」について

◆ 「成年後見制度」の認知状況（問 24）

問 24 「成年後見制度」について知っていましたか。（1つに○）

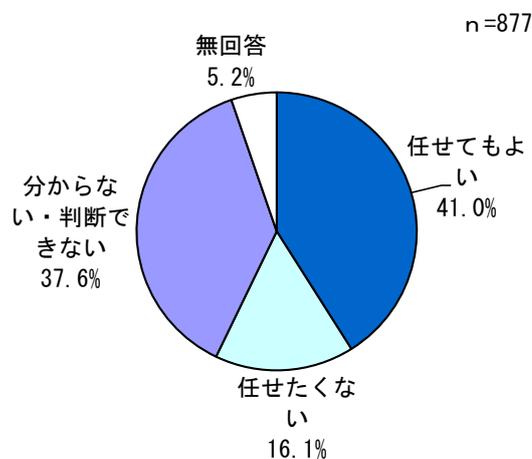
- 「よく知らないが、聞いたことはある」（38.4%）という回答が最も多く、「知っていた」（31.4%）、「知らなかった」（26.6%）の順で続いています。



◆ 「成年後見制度」の利用意向（問 25）

問 25 万一、自分自身の判断能力が不十分になった場合、「成年後見制度」に基づいて自身の財産等を「成年後見人」に任せることについて、どのように思いますか。（1つに○）

- 「任せてもよい」（41.0%）という回答が最も多く、「分からない・判断できない」（37.6%）、「任せたくない」（16.1%）の順で続いています。



【年齢別】

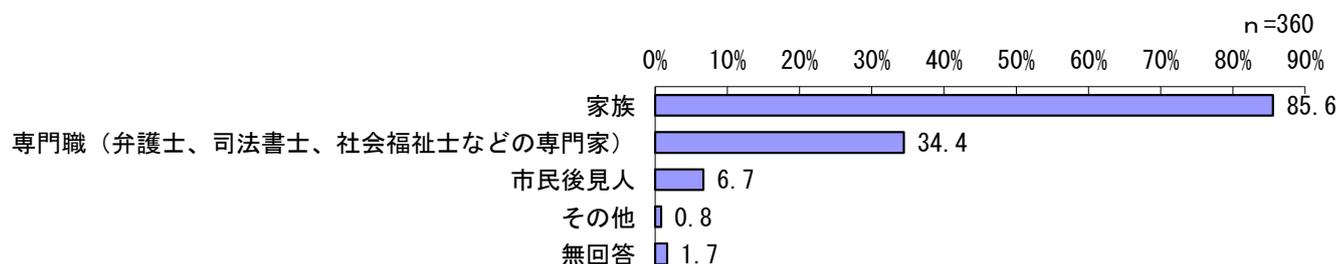
○年齢別でみると、若年層では「分からない・判断できない」が比較的大きな割合を占めていますが、年代の上昇とともに30歳代から50歳代までは4割台、60歳代以上では3割台と、割合が減少を示しています。

	合計	任せてもよい	任せたくない	分からない・判断できない	無回答
全体	877	360	141	330	46
	100.0	41.0	16.1	37.6	5.2
18・19歳	8	1	2	5	0
	100.0	12.5	25.0	62.5	0.0
20～29歳	41	16	4	21	0
	100.0	39.0	9.8	51.2	0.0
30～39歳	39	13	9	17	0
	100.0	33.3	23.1	43.6	0.0
40～49歳	98	42	11	44	1
	100.0	42.9	11.2	44.9	1.0
50～59歳	128	50	18	54	6
	100.0	39.1	14.1	42.2	4.7
60～69歳	221	102	44	69	6
	100.0	46.2	19.9	31.2	2.7
70～79歳	207	88	32	73	14
	100.0	42.5	15.5	35.3	6.8
80歳以上	130	48	20	46	16
	100.0	36.9	15.4	35.4	12.3

◆任せてもよいと思う成年後見人（問26）

問26 問25で「1 任せてもよい」と答えた方がお答えください。誰になら、任せてもよいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

○「家族」（85.6%）という回答が最も多く、次いで「専門職（弁護士、司法書士、社会福祉士などの専門家）」（34.4%）が多くなっています。

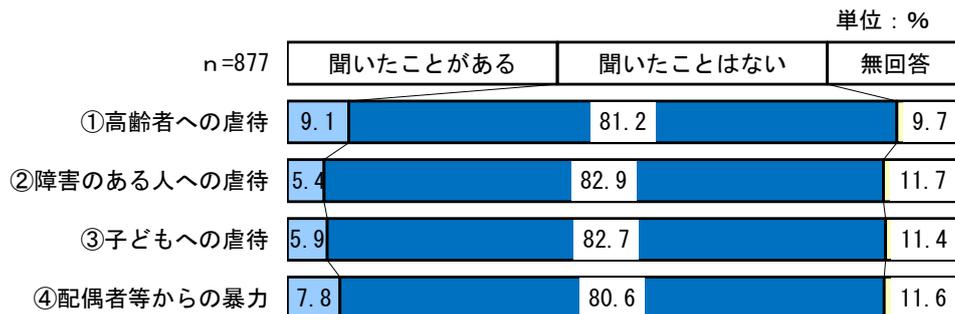


Ⅸ 虐待等について

◆虐待等について聞いた経験の有無（問 27）

問 27 あなたは、地域の出来事として、下記の①～④に示す家族等による虐待等があったことを聞いたことがありますか。（それぞれ1つずつに○）

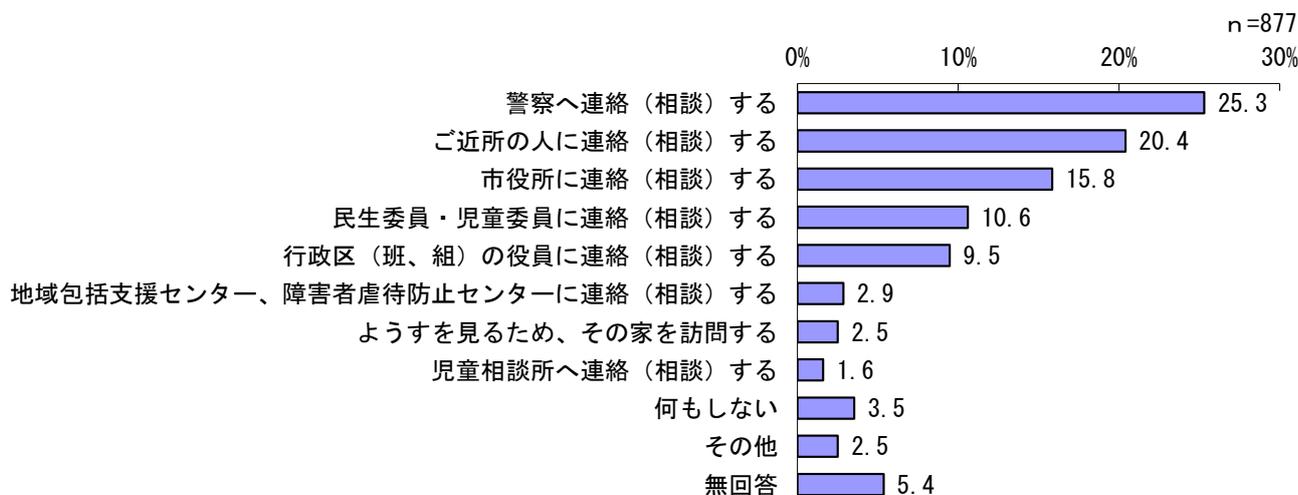
○①～④のいずれについても「聞いたことはない」という回答が8割を超えて圧倒的に多くなっていますが、「聞いたことがある」が比較的多いのは、“①高齢者への虐待”（9.1%）と“④配偶者等からの暴力”（7.8%）となっています。



◆周囲での虐待や暴力の発生への対応（問 28）

問 28 あなたの周囲で虐待や暴力が発生していることが分かったら、最初にどのように対応しますか。（1つに○）

○「警察へ連絡（相談）する」（25.3%）という回答が最も多く、次いで「ご近所の人に連絡（相談）する」（20.4%）が多く、「市役所に連絡（相談）する」（15.8%）が続いています。

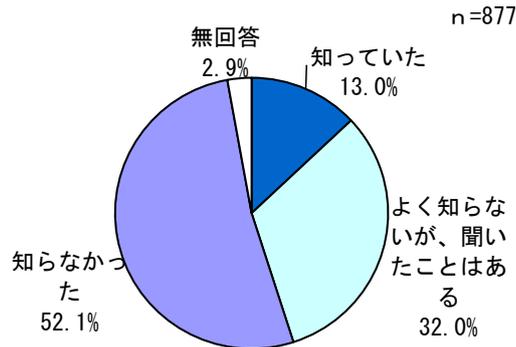


X 生活に困ったときのことについて

◆「生活困窮者自立支援相談窓口」の認知状況（問 29）

問 29 生活に困った時のために、「生活困窮者自立支援相談窓口」という相談窓口がありますが、知っていましたか。（1つに○）

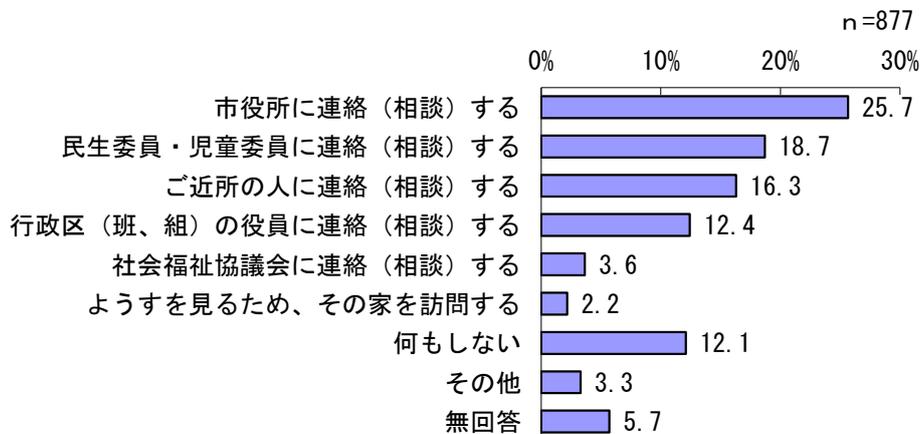
- 「知らなかった」（52.1%）という回答が過半数を占めて最も多く、次いで「よく知らないが、聞いたことはある」（32.0%）、「知っていた」（13.0%）の順になっています。



◆周囲に生活困窮者がいた場合の対応（問 30）

問 30 あなたの周囲で生活に困っている人（問 29「生活困窮者自立支援制度」に該当する程度）がいた場合、最初、どのように対応しますか。（1つに○）

- 「市役所に連絡（相談）する」（25.7%）という回答が最も多く、「民生委員・児童委員に連絡（相談）する」（18.7%）、「ご近所の人に連絡（相談）する」（16.3%）等が続いています。

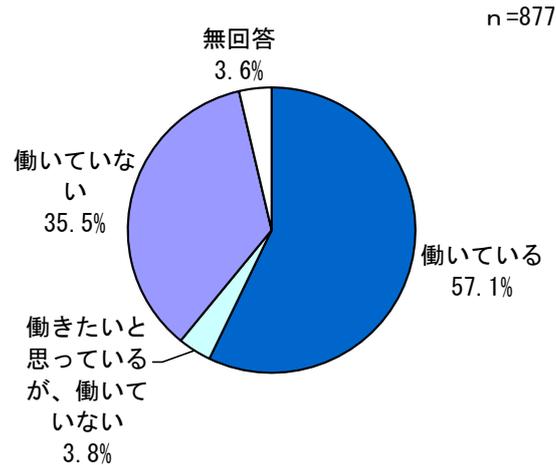


XI 就労支援について

◆現在の就労状況（問 31）

問 31 現在、働いていますか。（1つに○）

○「働いている」（57.1%）という回答が過半数で最も多く、次いで「働いていない」（35.5%）、「働きたいと思っているが、働いていない」（3.8%）の順になっています。



【年齢別、家族構成別】

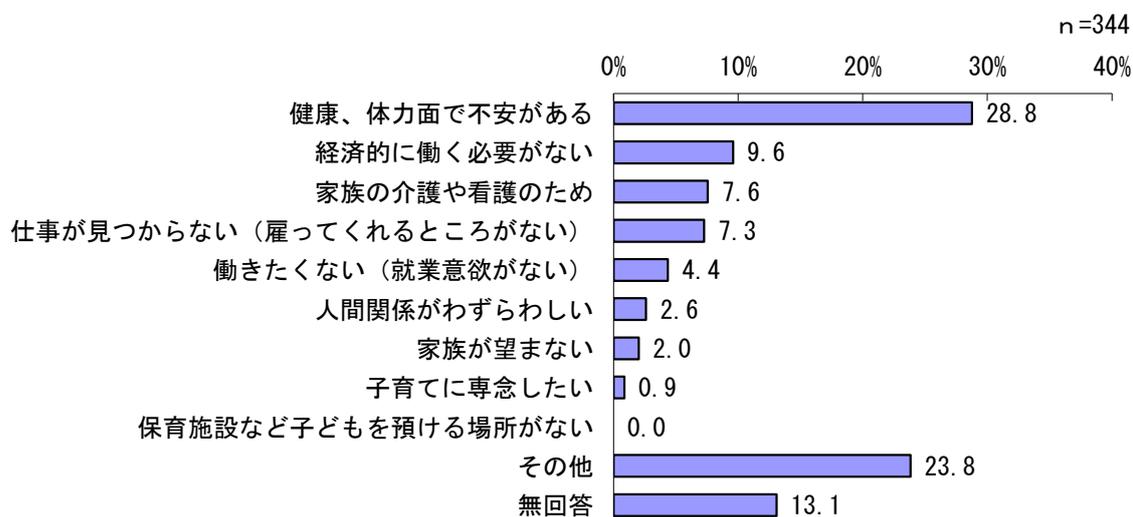
○年齢別では、10歳代と70歳代以上以外では「働いている」が最も多くなっています。家族構成別では、ひとり暮らしとその他では「働いていない」が過半数で最も多いですが、それら以外の家族構成では「働いている」が最も多くなっています。

	合計	働いている	働きたいと思っているが、働いていない	働いていない	無回答
全体	877	501	33	311	32
	100.0	57.1	3.8	35.5	3.6
18・19歳	8	2	0	6	0
	100.0	25.0	0.0	75.0	0.0
20～29歳	41	31	2	8	0
	100.0	75.6	4.9	19.5	0.0
30～39歳	39	33	3	3	0
	100.0	84.6	7.7	7.7	0.0
40～49歳	98	91	4	3	0
	100.0	92.9	4.1	3.1	0.0
50～59歳	128	112	5	10	1
	100.0	87.5	3.9	7.8	0.8
60～69歳	221	132	10	76	3
	100.0	59.7	4.5	34.4	1.4
70～79歳	207	76	7	112	12
	100.0	36.7	3.4	54.1	5.8
80歳以上	130	23	1	92	14
	100.0	17.7	0.8	70.8	10.8
ひとり暮らし	91	31	5	50	5
	100.0	34.1	5.5	54.9	5.5
夫婦のみ	252	127	6	114	5
	100.0	50.4	2.4	45.2	2.0
二世帯世帯 （親と子）	362	234	14	100	14
	100.0	64.6	3.9	27.6	3.9
三世帯世帯 （親と子と その他）	144	97	6	36	5
	100.0	67.4	4.2	25.0	3.5
その他	22	10	1	11	0
	100.0	45.5	4.5	50.0	0.0

◆働いていない主な理由（問 32）

問 32 問 31 で「2 働きたいと思っているが、働いていない」「3 働いていない」と答えた方のみ。働いていない主な理由は何ですか。（1つに○）

- 「健康、体力面で不安がある」（28.8%）という回答が最も多く、次いで「その他」（23.8%）が多く、「無回答」（13.1%）が続いています。



〔「その他」の主な具体的内容〕

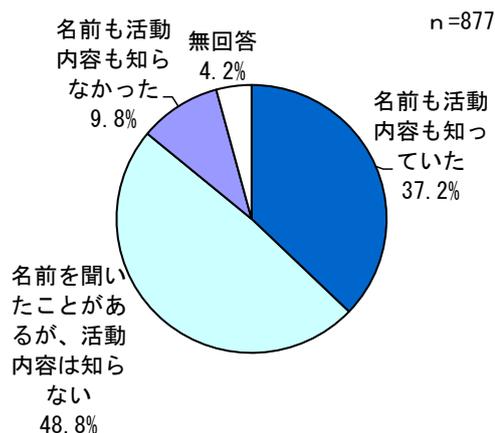
- ・高齢のため。（引退、年金生活。）
- ・学生であるため。

XII 社会福祉協議会（地域福祉を推進する民間団体）について

◆「社会福祉協議会」の認知状況（問 33）

問 33 地域の福祉の推進を図るために諸活動を行っている「社会福祉協議会」という組織を知っていましたか。（1つに○）

○「名前を聞いたことがあるが、活動内容は知らない」（48.8%）という回答が半数弱を占めて最も多く、次いで「名前も活動内容も知っていた」（37.2%）、「名前も活動内容も知らなかった」（9.8%）の順となっています。



【男女別、年齢別】

○男女別では、男性では「名前も活動内容も知っていた」の回答割合が女性よりも5.5ポイント少なく、反対に「名前も活動内容も知らなかった」は、女性よりも4.3ポイント多くなっています。

年齢別で見ると、30歳代と60・70歳代で「名前も活動内容も知っていた」が4割を超えて多く、70歳代では最も多い回答になっています。10歳代では「名前も活動内容も知らなかった」が8人中5人と、6割を超える値となっています。

	合計	名前も活動内容も知っていた	名前を聞いたことがあるが、活動内容は知らない	名前も活動内容も知らなかった	無回答
全体	877	326	428	86	37
	100.0	37.2	48.8	9.8	4.2
男性	385	133	192	47	13
	100.0	34.5	49.9	12.2	3.4
女性	483	193	233	38	19
	100.0	40.0	48.2	7.9	3.9
18・19歳	8	0	3	5	0
	100.0	0.0	37.5	62.5	0.0
20～29歳	41	8	20	13	0
	100.0	19.5	48.8	31.7	0.0
30～39歳	39	16	18	5	0
	100.0	41.0	46.2	12.8	0.0
40～49歳	98	38	50	10	0
	100.0	38.8	51.0	10.2	0.0
50～59歳	128	45	68	13	2
	100.0	35.2	53.1	10.2	1.6
60～69歳	221	92	111	12	6
	100.0	41.6	50.2	5.4	2.7
70～79歳	207	94	91	12	10
	100.0	45.4	44.0	5.8	4.8
80歳以上	130	33	65	16	16
	100.0	25.4	50.0	12.3	12.3

【居住地区別】

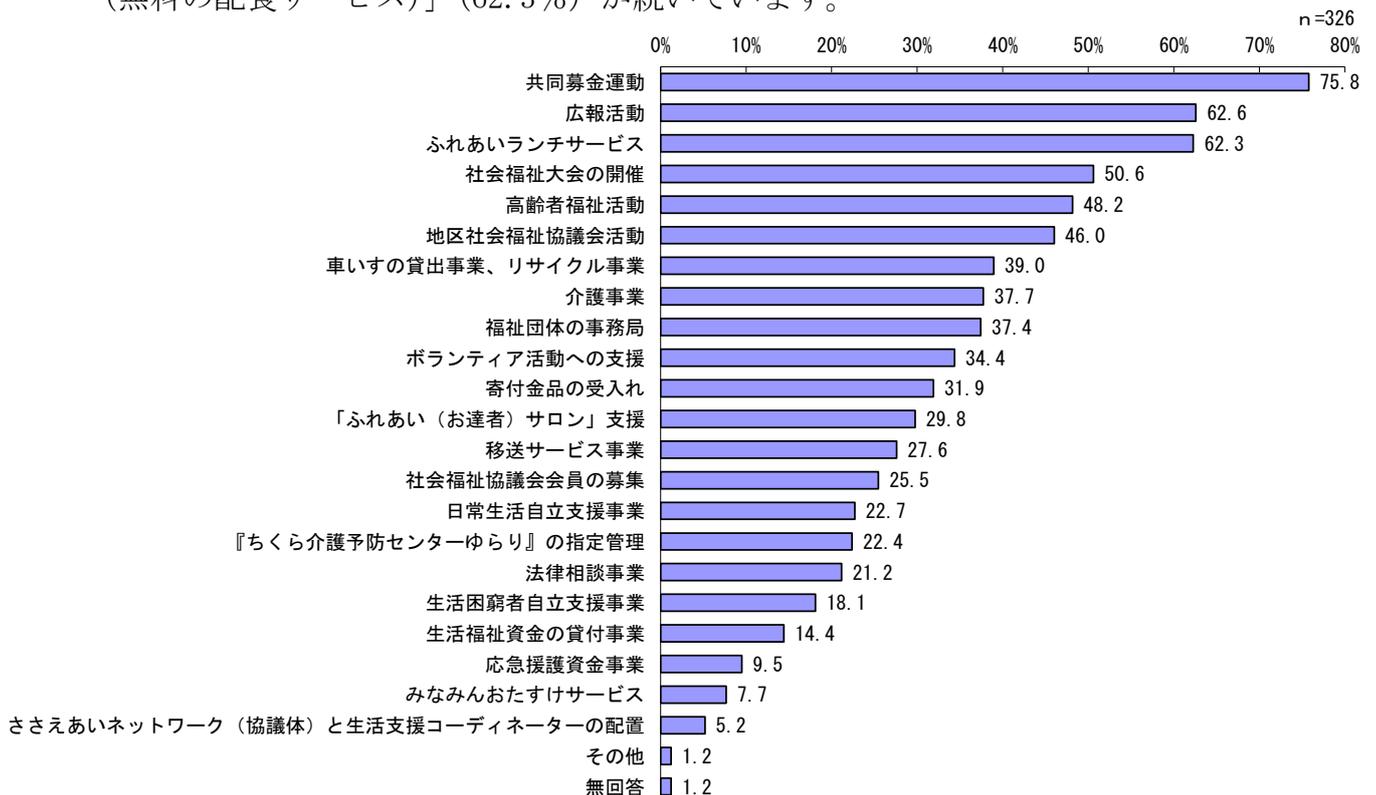
○居住地区別でみると、富山、丸山、和田の各地区で「名前も活動内容も知っていた」が4割台の値で多く、富山地区では最も多い回答になっています。

	合計	名前も活動内容も知っていた	名前を聞いたことがあるが、活動内容は知らない	名前も活動内容も知らなかった	無回答
全体	877	326	428	86	37
	100.0	37.2	48.8	9.8	4.2
富浦	115	33	62	14	6
	100.0	28.7	53.9	12.2	5.2
富山	124	61	55	4	4
	100.0	49.2	44.4	3.2	3.2
三芳	95	36	42	14	3
	100.0	37.9	44.2	14.7	3.2
白浜	102	33	57	9	3
	100.0	32.4	55.9	8.8	2.9
千倉	223	70	116	29	8
	100.0	31.4	52.0	13.0	3.6
丸山	107	47	50	4	6
	100.0	43.9	46.7	3.7	5.6
和田	104	43	45	11	5
	100.0	41.3	43.3	10.6	4.8

◆知っていた社会福祉協議会の活動（問 34）

問 34 問 33 で「1 名前も活動内容も知っていた」と答えた方がお答えください。社会福祉協議会の活動の中であなたが知っていたものは、何ですか。（あてはまるものすべてに○）

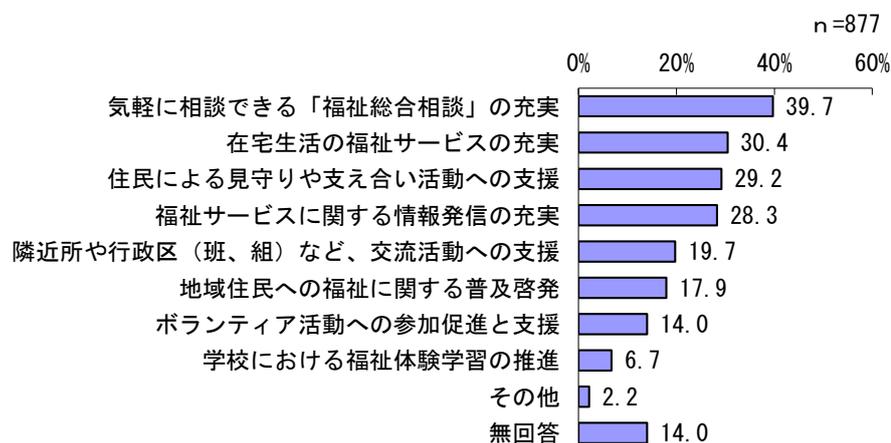
○「共同募金運動」（75.8%）という回答が最も多く、「広報活動（広報誌『てんだあ』の発行、ホームページの情報提供、声の広報など）」（62.6%）、「ふれあいランチサービス（無料の配食サービス）」（62.3%）が続いています。



◆今後充実させてほしい社会福祉協議会の活動（問 35）

問 35 社会福祉協議会が行う活動として、今後、充実させてほしいものは何ですか。（3つまでに○）

○「気軽に相談できる『福祉総合相談』の充実」（39.7%）という回答がほぼ4割に達して最も多く、「在宅生活の福祉サービスの充実」（30.4%）、「住民による見守りや支え合い活動への支援」（29.2%）、「福祉サービスに関する情報発信の充実」（28.3%）が続いています。

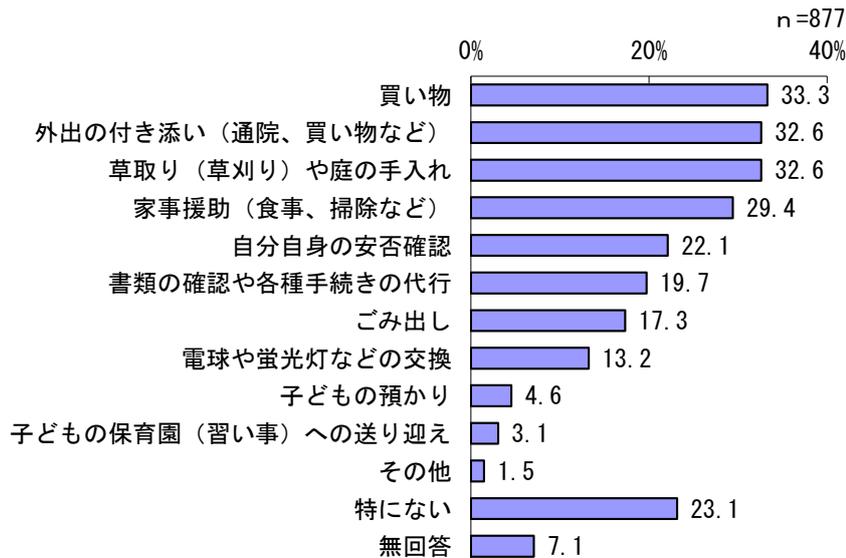


ⅩⅢ 「地域福祉（福祉のまちづくり）」について

◆頼みたい有料代行サービス（問 36）

問 36 日常生活で自分自身が困ったときに、民間の事業所（団体）が有料で代行してくれるとしたら、頼みたいことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

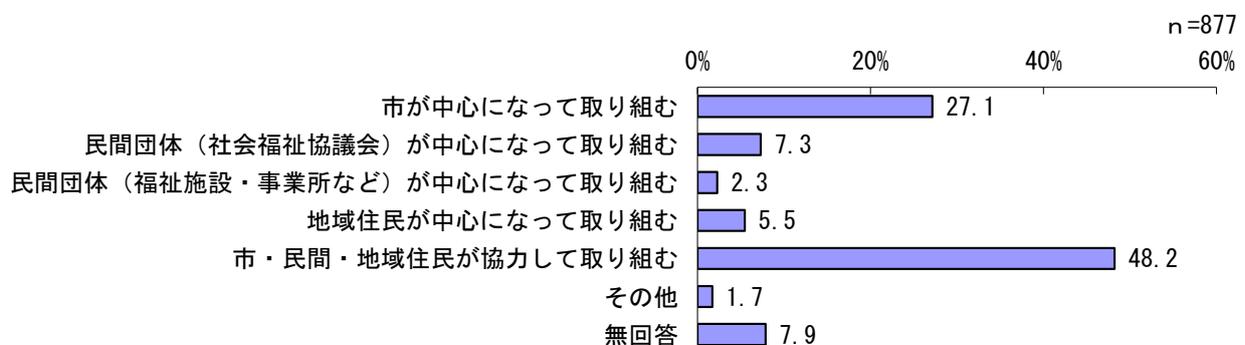
○「買い物」（33.3%）、「外出の付き添い（通院、買い物など）」と「草取り（草刈り）や庭の手入れ」（ともに 32.6%）が多く、「家事援助（食事、掃除など）」（29.4%）が続いています。



◆地域福祉推進のために必要と考えること（問 37）

問 37 今後、地域福祉を推進していくためには、市と民間団体と住民の関係で、何が必要だと考えますか。（1つに○）

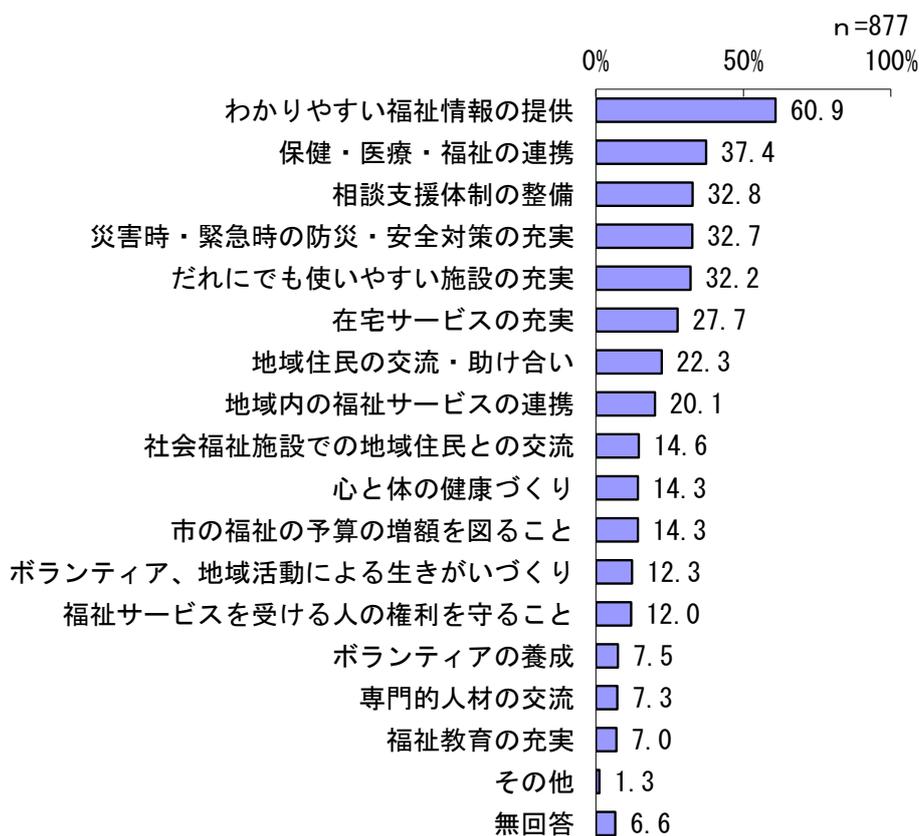
○「市・民間・地域住民が協力して取り組む」（48.2%）という回答が最も多く、次いで「市が中心になって取り組む」（27.1%）が多くなっています。



◆「福祉のまちづくり」推進のために重要と思うこと（問 38）

問 38 今後、南房総市で「福祉のまちづくり」を進めるためには、どんなことが重要だと思いますか。（5 つまでに○）

○「わかりやすい福祉情報の提供」（60.9%）という回答が最も多く、次いで「保健・医療・福祉の連携」（37.4%）が多く、「相談支援体制の整備」（32.8%）、「災害時・緊急時の防災・安全対策の充実」（32.7%）、「だれにでも使いやすい施設の充実」（32.2%）が続いています。



【居住地区別】

居住地区別では、7地区の全てで「わかりやすい福祉情報の提供」が最も多くなっているのに次いで、富浦、富山、白浜、丸山の4地区で「保健・医療・福祉の連携」が、三芳地区で「災害時・緊急時の防災・安全対策の充実」が、千倉地区で「だれにでも使いやすい施設の充実」が、それぞれ多くなっています（和田地区では「相談支援体制の整備」と「保健・医療・福祉の連携」が同数2位）。

上位5回答まででは、全地区共通ランクインのものが多くは多い状況ですが、上記以外の回答としては、「在宅サービスの充実」が挙げられます。

*上位5回答、単位：％、三芳地区はnが100未満であるため実人数の後に括弧書きで参考値の％を記載

地区名 回答者数(人)						
富浦 115	わかりやすい福祉情報の提供	保健・医療・福祉の連携	相談支援体制の整備	在宅サービスの充実	だれにでも使いやすい施設の充実	
	60.9	37.4	36.5		31.3	
富山 124	わかりやすい福祉情報の提供	保健・医療・福祉の連携	災害時・緊急時の防災・安全対策の充実	だれにでも使いやすい施設の充実	相談支援体制の整備	
	57.3	39.5	32.3	31.5	29.8	
三芳 95	わかりやすい福祉情報の提供	災害時・緊急時の防災・安全対策の充実	相談支援体制の整備	保健・医療・福祉の連携	だれにでも使いやすい施設の充実	
	61人(64.2)	35人(36.8)		34人(35.8)	28人(29.5)	
白浜 102	わかりやすい福祉情報の提供	保健・医療・福祉の連携	相談支援体制の整備	だれにでも使いやすい施設の充実	災害時・緊急時の防災・安全対策の充実	
	70.6	39.2			32.4	
千倉 223	わかりやすい福祉情報の提供	だれにでも使いやすい施設の充実	保健・医療・福祉の連携	災害時・緊急時の防災・安全対策の充実	在宅サービスの充実	
	57.4	36.3	31.4	30.0	29.1	
丸山 107	わかりやすい福祉情報の提供	保健・医療・福祉の連携	災害時・緊急時の防災・安全対策の充実	だれにでも使いやすい施設の充実	相談支援体制の整備	在宅サービスの充実
	65.4	43.0	36.4	31.8		30.8
和田 104	わかりやすい福祉情報の提供	相談支援体制の整備	保健・医療・福祉の連携	災害時・緊急時の防災・安全対策の充実	だれにでも使いやすい施設の充実	
	56.7		41.3	38.5	27.9	

◆自由記入内容のまとめ（問 39）

問 39 最後に、あなたが普段困っていることや、あなたが地域でやってみたい活動など、自由にお書きください。

○普段の困りごとや地域でやってみたい活動などについての考え等を、自由記入方式でたずねました。189 人の回答者から記入があり、その内容を項目別にまとめると、以下のようになります。

(合計 243 件)	
ボランティア（活動の意向等）	19 件
具体的記載内容実例： ○ボランティア活動をしたいが、地域でどのような活動をしているか、情報が少ない。 ○ボランティア活動も、活動している人達の意見を聞き、それに沿って市が支援してくれたら有難いと思います。 ○ストレス過多で疲れ切っているので生活するので手一杯の為、ボランティアも考えられません。 ○近所の方達の車での送迎や、見守りのお手伝いできれば、と思っています。	
買い物に関する外出・移動	17 件
具体的記載内容実例： ○買い物に不便で家族の休日に頼るしかありません。後はタクシーを利用しています。生活用品、食品は生協を利用しています。 ○高齢者の方の買い物代行などを有償でできたらいいな、と思います。 ○今は自動車の運転が出来るけど、年とともにできなくなり、商店が近くに無くなり、自分で行けなくなったらどうでしょう。	
外出・移動について	15 件
具体的記載内容実例： ○近くにコンビニなどが無く、車で行かないといけなの不便だと思う。ガソリンスタンドも近くにないため館山か岩井の方まで行かないといけない。 ○路線バスの本数が少ない。 ○運転できなくなった時の移動手段（が重要）。	
未来（将来）への不安	15 件
具体的記載内容実例： ○地域は広く、奥が深い。そして高齢化であるため、独居の方が増える一方である。自分も含めてそんなに遠くはない将来には無くなるのではないかと不安に思う。老人が何がしたいかも大切だがそれを見守り助けてくれる壮年、少年、子どもが居なくては成立しない。 ○Uターンで南房総市に帰ってきて7年です。子どもも夫もない独身者です。帰ってきて困ったのは仕事が無い事。独り身の中年女性には生きづらい世の中だと思っています。今の生活が不安定な為、将来に不安しかありません。 ○人口減少、少子高齢、害獣被害、コミュニティや農地、管理地など、身の回りの住環境の維持が困難になりつつある現在にあって、未来への不安を数えあげればきりがありません。	
健康問題（病気等関連）について	13 件
具体的記載内容実例： ○1人暮らし、86才男性です。持病（心臓細動）が有り、発作が心配です（ここ数年発作はありませんが）。 ○高齢者。現在は夫婦二人、元気で生活しています。でも病気になった時の事を考えると不安を感じる時があります。 ○子育ての不安とうつ病の戦い中。	

アンケート調査自体について	10件
<p>具体的記載内容実例: ○難しいアンケートです。質問内容が具体性に欠けていると思います。ボーッと生活している私にはすごく難しいアンケートでした。何を調べて、その後どうしたいのですか、先が見えません！</p> <p>○私は95才になるのでこのようなアンケートは大変、自分で読んで答えることが大変、困難でした。手伝ってもらいました。</p> <p>○長い文章の読解が難しいです。</p>	
バリアフリー・ユニバーサルデザインのまちづくり	9件
地域（集落）の維持について	9件
自然環境（野生動物等）について	9件
地域での支え合いについて	8件
防災・減災の取り組み	8件
自然環境（ゴミ問題）	7件
楽しみ・生きがいづくりについて	7件
通院に関する外出・移動	6件
在宅介護（支援）	4件
民生委員・児童委員	4件
声掛け、あいさつ運動	3件
世代間交流	3件
ペットの飼い方のマナー	3件
健康づくり（意識、介護予防）	2件
居場所づくり（高齢者）	2件
活動の場づくり	2件
福祉情報の発信について	2件
福祉情報の情報提供	2件
相談支援体制の充実	2件
公園の整備	2件
行政区について	2件
（経済面も含む）老後の生活	2件
「地域福祉」について（広報・啓発）	1件
「多問題家庭」について	1件
市等からのアウトリーチへの要望	1件
障害のある人の働き場	1件
障害のある人の自己選択について	1件
福祉人材の育成	1件
医療機関について	1件
その他	49件

第 3 章 資料（調査票）

南房総市地域福祉計画・地域福祉活動計画 策定のための市民アンケート調査

～ご協力をお願い～

市民の皆さまには、日頃、市政運営および社会福祉協議会活動にご理解、ご協力をいただき、ありがとうございます。

本市および市社会福祉協議会では、平成30・31年度にかけて、市民の皆さまと市、関係機関・団体等が手を携え、誰もが心豊かに、安心して暮らし続けられるまちづくりを推進するため、(仮称)『南房総市地域福祉計画・地域福祉活動計画』策定の作業に着手したところです。その一環として、市民の皆さまが「地域」の中でどのような暮らしを送り、どのようなお考えを持っているのか等を把握するため、アンケート調査を実施させていただくことになりました。

この調査は、18歳以上の市民の皆さまの中から調査対象として無作為に1,500人の方を選ばせていただき、ご協力をお願いするものです。調査結果については統計的に処理しますので、お答えいただいた内容によって具体的な個人を特定することはありませんし、計画策定の基礎資料とする以外の目的で使用することはありません。

より有効な調査とするために、一人でも多くの皆さまのお声をおきかせいただきたいと存じます。ご多忙の折大変恐縮ですが、調査の趣旨をおくみ取りいただきご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成30年11月

南房総市長 石井 裕

社会福祉法人南房総市社会福祉協議会会長 渋谷 幸一

ご記入にあたってのお願い

- 1 あて名のご本人が直接お答えください。ご本人が、身体の具合その他の事情でご記入できない場合は、他の方がご本人のお答えをお聞きの上、代筆されても構いません。
- 2 質問によっては回答する方を限定しているものもありますので、なるべく質問の順にお答えください。
- 3 ご記入は黒または青色の鉛筆、ボールペン、万年筆などでお書きください。
- 4 お答えは、現在の状況、お考え等に最も近いと思う回答選択肢の番号の数字を○で囲んでお示しください。
- 5 「その他」を回答したときは、後の()内に具体的な内容をご記入ください。
- 6 ご記入いただきましたアンケート票は、同封の返信用封筒に入れて、**平成30年12月7日(金)までに郵便ポストに投函してください**(切手は不要です。調査票や封筒へのお名前、ご住所等のご記入も不要です)。

この調査に関してのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

南房総市 保健福祉部 社会福祉課

TEL. 0470-36-1153(内線301) / FAX. 0470-36-1133

◇「地域福祉」とは：

市民一人ひとりの生活の困りごと（生活課題）の解決や生活に望むこと（生活の質）の向上をめざす取り組み（実践）と仕組み（施策・制度）が「地域福祉」です。

私たちが暮らす「地域」は、少子高齢化やコミュニケーションの変化により、生活の困りごと（生活課題）も多様化しています。そこで「地域福祉」は、多様化する地域の課題を解決し、誰もが安心して暮らせる「福祉のまちづくり」をめざすため、市民の皆さんと市役所・社会福祉協議会などの連携・協働を重視します。

◇「地域福祉計画」とは：

「地域福祉計画」は、社会福祉法第107条の規定に基づき、「地域福祉」を推進する包括的な施策をとおして、その地域で暮らす皆さんの支えあい・助けあいを行政機関（各市町村）が支援する計画です。

高齢者や障害のある人たちを対象にした行政計画（高齢者福祉計画や障害福祉計画等）と異なり、「地域福祉計画」は、その地域で暮らすすべての人たちを支援する行政計画です。

◇「地域福祉活動計画」とは：

「地域福祉活動計画」は、市民の皆さんが生活の困りごと（生活課題）や生活に望むこと（生活の質）に気づき、その解決や向上をめざす取り組みについて考え、地域全体で市民の皆さんが支え合い・助け合いに取り組むことをめざします。

社会福祉法第109条で「地域福祉の推進団体」とされる「社会福祉協議会」が、計画づくりと実践を支援します。

I あなた（封筒のあて名のご本人）自身について

ア 性別（1つに○）

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

イ 年齢（1つに○） ※11月1日現在でお答えください。

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1 18・19歳 | 2 20～29歳 | 3 30～39歳 |
| 4 40～49歳 | 5 50～59歳 | 6 60～69歳 |
| 7 70～79歳 | 8 80歳以上 | |

ウ お住まいの地区（1つに○）

- | | | | |
|------|------|------|------|
| 1 富浦 | 2 富山 | 3 三芳 | 4 白浜 |
| 5 千倉 | 6 丸山 | 7 和田 | |

エ 南房総市に、通算して何年住んでいますか。（1つに○）

- | | |
|-------------|------------|
| 1 1年未満 | 2 1年～3年未満 |
| 3 3年～5年未満 | 4 5年～10年未満 |
| 5 10年～20年未満 | 6 20年以上 |

オ 家族構成（1つに○）

- | | |
|-------------------------------|----------------|
| 1 ひとり暮らし | 2 夫婦のみ |
| 3 二世帯世帯（親と子） | 4 三世帯世帯（親と子と孫） |
| 5 その他（ ） | |

カ 同居している家族に、介護・支援が必要な方がいますか。（1つに○）

- | | |
|------|-------|
| 1 いる | 2 いない |
|------|-------|

キ お住まいは、次のどれにあたりますか。（1つに○）

- | | |
|-------------------------------|--------------------|
| 1 持ち家（一戸建て） | 2 持ち家（マンション等集合住宅） |
| 3 賃貸住宅（一戸建て） | 4 賃貸住宅（マンション、アパート） |
| 5 公営住宅 | 6 官舎・寮・社宅等 |
| 7 その他（ ） | |

⑨高齢者が憩える場所が充実している	1	2	3	4
⑩買い物に行くのに不自由しない	1	2	3	4
⑪地域の福祉サービスが、ほぼ足りている	1	2	3	4

問3 お住まいの地域に、今後も住み続けたいですか。(1つに○)

- | | | |
|---------------|----------------|------|
| 1 ずっと住み続けたい | 2 当分は住み続けたい | →問4へ |
| 3 できれば市外に移りたい | 4 すぐにでも市外に移りたい | →問5へ |

問4 問3で「1 ずっと住み続けたい」「2 当分は住み続けたい」と答えた方がお答えください。 住み続けたい理由は、次のどれですか。(3つまでに○)

- | |
|---------------------|
| 1 生まれ育った地域のため |
| 2 持ち家があるため |
| 3 (自分や家族の) 仕事や通学のため |
| 4 親や親類の介護のため |
| 5 自然環境が豊かなため |
| 6 人間関係が良好なため |
| 7 行政サービスが良いため |
| 8 経済的な問題のため |
| 9 その他 () |

→問6へ

問5 問3で「3 できれば市外に移りたい」「4 すぐにでも市外に移りたい」と答えた方がお答えください。 市外に移りたい理由は、次のどれですか。(3つまでに○)

- | |
|---------------------|
| 1 (自分や家族の) 仕事や通学のため |
| 2 住宅に不満(老朽化)があるため |
| 3 日常生活が不便なため |
| 4 親や親類の介護のため |
| 5 人間関係がわずらわしいため |
| 6 人付き合いがないため |
| 7 行政サービスが使いにくい |
| 8 経済的な問題のため |
| 9 その他 () |

Ⅲ 日常生活で困っていることについて

問6 日常生活の中で困っていること、悩みを感じていることは、次のどれですか。(3つまでに○)

- | | |
|--------------------------|--------|
| 1 仕事(学校生活)に関すること | } →問7へ |
| 2 自分の健康に関すること | |
| 3 家族の健康や介護に関すること | |
| 4 子育てに関すること | |
| 5 近隣(地域)のトラブル、人間関係に関すること | |
| 6 家族(親戚)のトラブル、人間関係に関すること | |
| 7 将来の生活に関すること | |
| 8 経済的なこと | |
| 9 その他() | |
| 10 特にない →問8へ | |

問7 「問6」で「10 特にない」と答えた方以外の方がお答えください。問6で回答した困っていることや悩みを、誰(どこ)に相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--------------------------|
| 1 家族 |
| 2 親戚 |
| 3 職場の人 |
| 4 友人、知人 |
| 5 近隣(地域)の人 |
| 6 市役所 |
| 7 社会福祉協議会 |
| 8 民生委員・児童委員 |
| 9 行政区(班、組)の役員 |
| 10 医師や保健師など |
| 11 地域包括支援センター(高齢者相談センター) |
| 12 ホームヘルパー、ケアマネージャー |
| 13 安房地域生活支援センター |
| 14 インターネットの相談窓口(掲示板)など |
| 15 その他の人(機関)() |
| 16 相談相手がいない |
| 17 どこに相談したらいいかわからない |
| 18 誰にも相談したいと思わない |

Ⅳ ご近所付き合いについて

問 8 ご近所との付き合いは、どの程度していますか。(1つに○)

- 1 お互いに訪問し合う
- 2 何か困った時に助け合える
- 3 立ち話をする
- 4 あいさつをする
- 5 ほとんど付き合いはない

問 9 ご近所付き合いは、地域の暮らしやすさに影響すると思いますか。(1つに○)

- 1 大きく影響する
- 2 どちらかと言えば影響する
- 3 どちらかと言えば影響しない
- 4 影響しない

問 10 ご近所付き合いの関係を、今後どうしていきたいですか。(1つに○)

- 1 ご近所付き合いを深めたい
- 2 現状のままでよい
- 3 ご近所付き合いをなるべくしたくない
- 4 ご近所付き合いをやめたい

Ⅴ 支え合い・助け合いについて

問 11 お住まいの地域では、住民同士の支え合いが行われていると思いますか。(1つに○)

- 1 思う
- 2 どちらかと言うと思う
- 3 どちらかと言うと思わない
- 4 思わない

問 12 地域で困っている人がいたら、助けようと思いますか。(1つに○)

- 1 積極的に助けようと思う
- 2 助けようと思う
- 3 あまり助けようと思わない
- 4 助けようと思わない

問 13 地域に困っている人がいた場合、「頼まれ」たらできると思うことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 近隣への声かけや安否確認
- 2 ごみ出し
- 3 買い物の手伝い
- 4 子どもの預かり
- 5 保育園や習い事への送り迎え
- 6 病院への付き添いなど外出の手伝い
- 7 話し相手
- 8 書類の確認や各種手続きの代行
- 9 家事援助(食事作りや掃除など)
- 10 電球や蛍光灯などの交換
- 11 草取り(草刈り)や庭の手入れ
- 12 その他()
- 13 できることはない・頼まれてもしたくない

問 14 問 12 で「3 あまり助けようと思わない」「4 助けようと思わない」と答えた方がお答えください。(あまり) 助けようと思わない理由は何ですか。(1つに○)

- 1 仕事(学校)や家事などで忙しく、時間がないから
- 2 地域の人を知らないから
- 3 地域の中で、仲の良い人、気の合う人がいないから
- 4 あまり関わりを持ちたくないから
- 5 その他()

Ⅵ 地域活動(ボランティア活動を含む)について

問 15 地域の行事や活動(※ボランティア活動を含む)に参加していますか。(1つに○)

- | | |
|---------------------|----------|
| 1 積極的に参加(協力)している | } →問 16へ |
| 2 時々参加(協力)している | |
| 3 関心はあるが参加(協力)していない | } →問 17へ |
| 4 参加(協力)していない | |

問 18 問 16 で挙げたような活動が、地域でもっと活発に行われるためには、何が大切だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 住民同士が困ったときの、助け合いの関係を深めること
- 2 あいさつができる程度の顔見知りの関係を広げること
- 3 転入者など新たに住む人との関係づくりを強化すること
- 4 地域の学校と住民の交流を深めること
- 5 地域の会社・企業等と住民の交流を深めること
- 6 交流の機会となるさまざまな地域行事を増やすこと
- 7 その他 ()
- 8 特に思いつかない

問 19 現在の、地域福祉に関する住民と市役所との「協働」の関係(一緒に作り上げる関係)について、どう思いますか。(1つに○)

- 1 良い関係ができている
- 2 どちらかと言うと、良い関係ができている
- 3 どちらかと言うと、良い関係ができていない
- 4 良い関係ができていない

協働：

市民が相互に、または市民と行政が、お互いに共通する目的の実現や地域課題の解決のために、各々の資源や特性をいかして役割と責任を分担しながら、ともに連携・協力して取り組みを進めること。

Ⅶ 防災について

問 20 地域の防災訓練(防災行事)に参加していますか。(1つに○)

- 1 参加している
- 2 参加していない
- 3 実施されていない

問 21 災害が起きた場合について不安に思うことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 災害に備えた用意ができていない
- 2 避難する場所がわからない
- 3 避難した場合に、避難所での生活に不安がある
- 4 障害や高齢の方(*自分を含む)が一人で避難ができるか不安
- 5 日中は離れているため、家族が避難できているか不安
- 6 定期的な通院や常備薬の確保等ができるか不安
- 7 頼る人がいない
- 8 その他 ()
- 9 特に不安に思うことはない

問 22 ご近所に、災害が起きたら避難支援が必要と思われる方はいますか。また、いる場合、それはどのような方ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|-------|----------|-------------|
| 1 高齢者 | 2 障害のある人 | 3 乳幼児がいる親の方 |
| 4 妊婦 | 5 いない | 6 分からない |

問 23 問22で「1 高齢者」～「4 妊婦」と答えた方がお答えください。その人たちに対して、何か支援の行動をしたことはありますか。また、ある場合、それはどのようなことでしたか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---------------------------------|
| 1 日頃から声かけなどを行っている |
| 2 災害時のことで話し合ったことがある |
| 3 行政区(班、組)の役員に避難支援について話をしたことがある |
| 4 民生委員・児童委員に避難支援について話をしたことがある |
| 5 何もしていない |
| 6 その他() |

VIII 「成年後見制度」について

問 24 「成年後見制度」について知っていましたか。(1つに○)

- | |
|--------------------|
| 1 知っていた |
| 2 よく知らないが、聞いたことはある |
| 3 知らなかった |

成年後見制度:

判断力が不十分な成年者(知的障害者、精神障害者、認知症の高齢者等)が不利益を被らないように家庭裁判所に申し立てをし、その方を援助してくれる人(「後見人」)を付けて、財産管理や福祉サービスの利用などを任せる制度。

問 25 万一、自分自身の判断能力が不十分になった場合、「成年後見制度」に基づいて自身の財産等を「成年後見人」に任せることについて、どのように思いますか。(1つに○)

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1 任せてもよい →問26へ | 2 任せたくない →問27へ |
| 3 分からない・判断できない →問27へ | |

問 37 今後、地域福祉を推進していくためには、市と民間団体と住民の関係で、何が必要だと考えますか。(1つに○)

- 1 市が中心になって取り組む
- 2 民間団体(社会福祉協議会)が中心になって取り組む
- 3 民間団体(福祉施設・事業所など)が中心になって取り組む
- 4 地域住民が中心になって取り組む
- 5 市・民間・地域住民が協力して取り組む
- 6 その他()

問 38 今後、南房総市で「福祉のまちづくり」を進めるためには、どんなことが重要だと思いますか。(5つまでに○)

- 1 相談支援体制の整備
- 2 社会福祉施設での地域住民との交流
- 3 わかりやすい福祉情報の提供
- 4 地域内の福祉サービスの連携
- 5 在宅サービスの充実
- 6 保健・医療・福祉の連携
- 7 福祉サービスを受ける人の権利を守ること
- 8 福祉教育の充実
- 9 ボランティア、地域活動による生きがいづくり
- 10 だれにでも使いやすい施設の充実
- 11 災害時・緊急時の防災・安全対策の充実
- 12 心と体の健康づくり
- 13 ボランティアの養成
- 14 専門的人材の交流
- 15 地域住民の交流・助け合い
- 16 市の福祉の予算の増額を図ること
- 17 その他()

問 39 最後に、あなたが普段困っていることや、あなたが地域でやってみたい活動など、自由にお書きください。

質問は以上です。本調査にご協力くださり、誠にありがとうございました。

第

Ⅱ

編

地区別 / 福祉関係団体
意見交換会

第1章 調査の概要等

第1章 調査の概要等

1 調査の目的

『(仮称)南房総市地域福祉計画・地域福祉活動計画』の策定に向け、その一環として市内各地区の住民や福祉関係各団体の構成員が「地域」の中でどのような暮らしを送りどのようなことを問題点・課題と考えているのか等について、対象住民にワークショップ等の作業を行っていただきながら把握し、計画に反映させることを目的とする。

2 調査の方法

- ・調査区域：市内全域（＊「地区別交換会」については、旧町村ごとの地区別に実施）
- ・調査対象：各地区の民生委員・児童委員、区長、地区社会福祉協議会、各種ボランティア団体、当事者団体メンバーなど
- ・実施時期：A.「地区別意見交換会」…平成31年3月4日（月）～3月18日（月）
B.「福祉関係団体意見交換会」…平成31年3月22日（金）
- ・実施方法：ワークショップ形式
 - 当日の流れ…事務局からの説明：「地域福祉計画」「地域福祉活動計画」について
→各グループでのグループ討議（ワークショップ）（◇「①身近な困りごと」・「②災害に備えた支援」・「③それ以外」のそれぞれでの地域の課題・問題点の考察・討議 ◇それぞれの課題等に対する解決・改善策「私たち市民ができること」、「行政・社協等との協力など」についての考察・討議） →代表グループによる「ミニ発表会」 →『ささえあいネットワーク南房総』からの報告（地域における実際の活動団体による事例報告）
 - * B.「福祉関係団体意見交換会」の開催に先立って各団体等に対する事前アンケート調査を実施し、121件の送付に対して98件の回答があった。意見交換会の出欠の可否については、「可能」が58、「難しい」が40となっていた。

3 開催概要

A. 地区別意見交換会

■開催名称：「住みよい地域づくりを考える会」

地区名	開催年月日、会場	参加人数
富山	平成31年3月4日（午後）、 富山ふれあいコミュニティセンター	55人
千倉	3月8日（午前）、 千倉保健センター	48人
丸山	3月8日（午後）、 丸山公民館	30人
白浜	3月11日（午前）、 白浜コミュニティセンター	35人
和田	3月11日（午後）、 和田コミュニティセンター	39人
三芳	3月18日（午前）、 三芳保健福祉センター	34人
富浦	3月18日（午後）、 とみうら元気倶楽部	32人
合計参加人数		273人

B. 福祉関係団体意見交換会

…午後1時30分～3時45分 於丸山公民館

参加者：各種ボランティア団体、老人クラブ連合会、福祉当事者団体、地区社会福祉協議会等のメンバー 計69人

→当日は10グループに分かれて作業・意見交換。

第2章 開催結果のまとめ

第2章 開催結果のまとめ

A. 「地区別意見交換会」のまとめ

※ 地区別交換会の結果まとめについては、→本書第IV編の記事をご参照ください。

B. 「福祉関係団体意見交換会」のまとめ

第1グループ

【団体としての課題と解決・改善策】

- ・高齢者ばかり。
- ・やる事は同じなのに立場が違くと横のつながりが無い。また、情報発信が悪い・少ない。
 - 他団体の活動が分からない・知らない。■何の団体があるか分からない。→研修、会議の後に周りの人へ伝えると良い。
- ・人材不足（若い人の参加が少ない。）→学校へ働きかけて子どもの参加を促すと良い。
- ・会議を開催しても結果が伝わらない。結果をフィードバックする必要がある。
- ・「個人情報」の扱いを、どうしたらいいか分からない（縛りが厳し過ぎる）。→民生委員へ伝えると良い。
- ・子どもが会を抜けると、父母の関心が無くなる。

【計画に盛り込んでもらいたいこと（行政・社協に望むこと）】

- ・市が相談窓口等を通じて情報を収集し、団体へ流すようにしてほしい。
- ・文字を読むのが大変なので記事が細かいと読もうと思わないため、読みたいと思わせるようなものを「富浦通信」に載せるようにする。

第2グループ

【団体としての課題と解決・改善策】

- ・興味を持ってもらえる内容に、どうやってしたら良いかわからない。
- ・できる範囲での活動でいっぱいである。
- ・活動資金不足
- ・死ぬまで働く地域柄で、ボランティア＝暇人だと思われる。
- ・人材不足⇨これについては、「心当たりの人に声を掛けてみる」以外には無い
- ・活動できる車が欲しい。

【計画に盛り込んでもらいたいこと（行政・社協に望むこと）】

- ・活動資金としての助成金が欲しい。
 - また、そのための書類を簡単なものにしてほしい。
- ・貸し出しの車が欲しい（ボランティア活動車）。
- ・区長と接点を持てるように間を取り持つてほしい。

第3グループ

【団体としての課題と解決・改善策】

- ・どの団体も共通して後継者不足である。また、決算書・予算書などの書類作りが煩雑で大変。
- ・「地区社協」は周知不足である。また、出て来る人が決まっている、行事のマナー化、（行事やサロン時の）送迎の問題など。
- ・「老人クラブ」は、会員が出て来ない（特に独居の女性）こと、役員の引き受け手不足等。
- ・「もみじ会（配食サービス）」は、ボランティアの高齢化等。

- ・「遺族会」については、白浜地区では地域にとけ込まない方も多いこと、会員数の減少。

【計画に盛り込んでもらいたいこと（行政・社協に望むこと）】

- ・全体としては、書類を簡素化してほしいことと、補助金の増額。また、タクシー券の対象に、運転免許証や車があっても加えてもらいたい。
- ・【配食サービス】仕入れが不便なので、掛売りではなく、現金で1年分預かり、その中でやり繰りできるようにしてほしい。そうでないならば、調味料など最低限の材料は社協で揃えてほしい。『アイリスの里』の好事例がある。
- ・【地区社協】費用弁済を考えてほしい。あと、若手人材のスカウトに力を貸してもらいたい。

第4グループ

【団体としての課題と解決・改善策】

- ・「社協」は、ボランティアの人が固定化し不足していることと、高齢化、活動のマンネリ化。
- ・『やあばっしえ白浜』は、ボランティア不足と、農業が多く“生涯現役”である地域性からボランティア等に人が集まらないこと、歩行困難者が参加できず送迎の問題もあること等が課題である。
- ・「手話の会」は会員が少ないこと（*先生を入れて7人）、会員が高齢化していること。
- ・「きらり」は、新会員が入らず、会員が高齢化していること。
- ・【解決・改善策】として、住民のボランティア意識を高めること（←ボランティアの人は「ひま」だと言われるような状況がある）、有料(有償)ボランティアにする方法を考えること、「ポイント制」にして見返りがあるようにすること等がある。

【計画に盛り込んでもらいたいこと（行政・社協に望むこと）】

- ・補助金を上げてもらいたい。
- ・困ったときの相談場所を市民に分かりやすくすること。
- ・スマートフォンから市へ意見ができるようにしてほしい。
- ・市から、スマートフォンに情報を提供する。
- ・小地域での交流の場を提供する。区単位の集会所の開放など。
- ・ボランティア（活動者）の養成を。
- ・コミュニティバスの運行。

第5グループ

【団体としての課題と解決・改善策】

- ・ランチサービスのボランティアの高齢化←○横のつながりが少ない。○集まる場所が無い。○一人二役などが多い。⇒市民に対してPRをしていくことが大切。民生委員にも活動を見てもらい、PRしてもらいたい。広報紙にも掲載する。
 - ランチサービスは、予算の関係でも作れなくなっている。
 - もう少し広い調理室が必要。
 - 会員が少なくなってしまう。
- ・高齢者二人世帯などにも支援をしたい。一人暮らし・二人暮らし高齢者の方に集まっていただき、楽しんでいただきたい。現在：3回開催→できれば4回開催したいが予算の関係でできない。
- ・車いすの方やひとりで公共交通機関を使えない方にも参加してもらいたいができない。

- ・大勢の方に参加してもらいたいが、人数が入れる場所が無く、作れる食数も限られている。
- ・「地域全体、一体で」と言うが、“個人情報の問題”でできない、ということが起きている。
- ・プライドがあるのか来ず、男性の参加者が少ない。
- ・会場に高座いすがあると良い。

【計画に盛り込んでもらいたいこと（行政・社協に望むこと）】

- ・各団体とのつながりづくり、団体と行政との話し合いの場づくり…文字だけではなく、実際の状況を見てもらうこと。日常生活の把握をしてほしい。
- ・地域での生活困難者への対策…地域レベルでの問題点に関心を持ってもらいたい。
- ・買い物、病院通いなどの交通の利用がし易いような対策

第6グループ

【団体としての課題と解決・改善策】

- ・「サロン」に関しては、エアコンの問題と送迎（責任）の問題、サロンを担うボランティアの責任についてや後継者（後継者不足）の課題がある。
- ・「老人会」については、会員の減少や男性が少ないこと等が課題。⇔男性が入りづらい環境なのか、あるいは名前のせい、地域の特性なのか？（…働き者で、どう誘っても会に入らない、またはデイサービスに行ってしまう。）
また、会費ばかり取るだけで何もしてくれない、という批判がある。
- ・各団体に一般的に共通していることとして、親が高齢化していること、会員が増えないこと、送迎が必要な方がいること、作品等を発表する場を求めていること等がある。

【計画に盛り込んでもらいたいこと（行政・社協に望むこと）】

- ・「移動手段」についてどう考えるか。：送迎中の事故の危惧、シャトルバス・コミュニティバス等小型の巡回型の車の運行について。
- ・「市民教育」について。⇒市民全員に協力してもらおうようにしていく。
- ・行政が先に立って行動すること。：○廃校になった学校等の利用促進 ○次世代に続いて活動してもらえるような人材の発掘

第7グループ

【団体としての課題と解決・改善策】

- ・「居場所」をつくったが、送迎に困っている。また、対象となる人はたくさんいるが実際に参加している人は一部に限定されている。
- ・「参加していない人」をどうやって巻き込んでいくかが課題。⇒行事や集まりに参加していなくても、民生委員さんや近所の人で情報を共有しておくようにすると良い。
- ・自分たちよりも下の世代にも地域の行事や支え合いに関心を持ってほしいのだが、後継者がいない。
- ・サロンに参加している人からも要望、意見を引き出していく必要がある。

【計画に盛り込んでもらいたいこと（行政・社協に望むこと）】

- ・通学用や施設のバスを、使っていない時間帯に団体に使わせてほしい（運転手付きで）。
- ・高齢者のみに焦点が当てられているが、地域には、若くても支援が必要な人がいるのではないかと

- …なかなか関わりにくいし把握も難しいが、多機関の連携で解決できるのではないだろうか？
- ・行政組織が「縦割り」であるので、計画の中では具体的な連携方法を盛り込んでほしい。
 - ・地域の活動に参加すると何かに還元できるような仕組みをつくるべきと思う。

第8グループ

【団体としての課題と解決・改善策】

- ・「配食」の担い手がいない（メンバーの高齢化）。
- ・活動のマンネリ化・メンバーの高齢化。また、活動場所の確保。
- ・次の世代がおらず、ボランティアの不足！！…高齢化してきているが、若い担い手が増えない、役員になる人がいない。
- ・移動手段が無い。また、高齢者が家から出たがらない。

【計画に盛り込んでもらいたいこと（行政・社協に望むこと）】

- ・担い手の確保。
- ・地区社協の統合・広域化。
- ・高齢者の移動手段の確保策を！！
- ・商店が無いため、買い物ができるような施策を検討してほしい。
- ・（運転）免許証が無くなったら、どうやって病院へ行くの？真剣に考え、取り組んでほしい。
- ・各地区単位で、高齢者の集う場所づくりを。
- ・高齢者同士協力して生きていくことへの支援・促進。

第9グループ

【団体としての課題と解決・改善策】

- ・子どもの見守りと独居老人の見守りを行っているが、個人情報保護法で個人情報が分からないため、パトロール活動が拡げられない。
- ・（障害関連団体）会員を集めたくても、障害の情報が分からないから、会員が増えない。
- ・予算、決算時期になると同じ書類（名簿など）を何度も提出することとなり、負担である。
- ・他の団体と一緒に活動したくても、足（車等）が無い。

【計画に盛り込んでもらいたいこと（行政・社協に望むこと）】

- ・似たような団体と話す機会が無いので、市のボランティア連絡協議会などで機会をつくってほしい。
- ・他の活動団体の活動内容が、名前だけでは分からないので、活動が分かるような団体名簿を配ってくれば、連携して活動が行える。
- ・和田地区の中の団体同士で集まって、困っていることなどを掘り下げて話し合えば、解決できることもあるのでは？
- ・団体の活動にとっては、活動を縮小させないために情報の公開と情報共有が必要。⇒団体の活動の情報共有を行い、団体にとって何が必要か、何ができるのか、社協が中心となつてまずは地区単位で把握して団体と団体をつなぐシステムを盛り込んでほしい。
- ・⇒「身体障害者福祉会」の会員を増やすべく支援することを盛り込んでほしい。（聞くだけではなく計画に反映して実行してもらいたい。）

第10グループ

【団体としての課題と解決・改善策】

- ・男性の参加が少ない。
- ・ボランティアの高齢化
- ・活動資金が少ない。
- ・役員のみ手が少ない→参加が半ば強制…やり方を変える必要あり？
- ・“他人事”として考えている。
- ・送迎を高齢者が担っている…市のボランティアバスを活用できないか？
- ・一方的なサービスではなく、参加者も分担して作業する。
- ・買い物弱者対策が必要⇔セブンイレブンが一部、対応

【計画に盛り込んでもらいたいこと（行政・社協に望むこと）】

- ・ボランティアバスを地域毎に運行できないか？
- ・助成金を上げる（計画的に）。
- ・事務の簡素化
- ・地域の実情に合った取り組みを。
- ・行政区と一体となった取り組みを。
- ・個人情報の取扱いが壁になっている。
- ・各団体の情報交換、交流の促進
…「行政は、口を出さずにカネを出せ！」

【「地区別意見交換会」風景】



【「福祉関係団体意見交換会」風景】



第3章 資料（「団体意見交換会」事前アンケート調査票・調査結果）

南房総市地域福祉計画・地域福祉活動計画 策定に向けた関係団体等意識調査 — 調査にご協力ください —

皆様には、日頃から南房総市の地域福祉の推進にご理解とご協力をいただきまして、厚くお礼申し上げます。

さて、我が国においては、少子高齢化が進み、世帯の形態も大きく変化する中で、家庭や地域の支え合う力が弱くなり、子育てや介護に伴うストレスの増大、ひとり暮らし高齢者の孤立化等、生活の不安が増えてきました。

こうした中、本市では市民の皆様、福祉関係団体、福祉関係事業者の皆様等と市や社会福祉協議会が、それぞれの役割を担い、協働・連携して地域福祉を力強く推進することで、誰もが、心豊かに安心して暮らし続けられるまちづくりを推進するため、南房総市と南房総市社会福祉協議会が、共同で（仮称）「南房総市地域福祉計画・地域福祉活動計画」の策定作業を進めています。

この調査は、市内で活動する福祉関係団体、ボランティア団体及びNPO法人等が、南房総市における地域福祉を推進するためどのような意識をもって福祉事業や福祉活動に取り組んでおられるかをお聞きし、計画策定に反映していくために実施するものです。

つきましては、何かとご多用のところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解の上、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成31年2月

南房総市長 石井 裕
南房総市社会福祉協議会長 渋谷 幸一

ご記入が終わった調査票は、同封の返信用封筒に入れて、

平成31年2月25日（月） までに投函してください。

※ この調査について、ご不明な点・ご質問がございましたら、下記までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

- 南房総市 保健福祉部 社会福祉課
電話 0470-36-1153（内線 301）
FAX 0470-36-1133
- 南房総市社会福祉協議会（本所）
電話 0470-44-3577
FAX 0470-44-3542

◇「地域福祉」とは：

市民一人ひとりの生活の困りごと（生活課題）の解決や生活に望むこと（生活の質）の向上をめざす取り組み（実践）と仕組み（施策・制度）が「地域福祉」です。

私たちが暮らす「地域」は、少子高齢化やコミュニケーションの変化により、生活の困りごと（生活課題）も多様化しています。そこで「地域福祉」は、多様化する地域の課題を解決し、誰もが安心して暮らせる「福祉のまちづくり」をめざすため、市民の皆さんと市役所・社会福祉協議会などの連携・協働を重視します。

◇「地域福祉計画」とは：

「地域福祉計画」は、社会福祉法第 107 条の規定に基づき、「地域福祉」を推進する包括的な施策をとおして、その地域で暮らす皆さんの支えあい・助けあいを行政機関（各市町村）が支援する計画です。

高齢者や障害のある人たちを対象にした行政計画（高齢者福祉計画や障害福祉計画等）と異なり、「地域福祉計画」は、その地域で暮らすすべての人たちを支援する行政計画です。

◇「地域福祉活動計画」とは：

「地域福祉活動計画」は、市民の皆さんが生活の困りごと（生活課題）や生活に望むこと（生活の質）に気づき、その解決や向上をめざす取り組みについて考え、地域全体で市民の皆さんが支え合い・助け合いに取り組むことをめざします。

社会福祉法第 109 条で「地域福祉の推進団体」とされる「社会福祉協議会」が、計画づくりと実践を支援します。

貴団体のことについておうかがいします

問1. 貴団体について

団 体 名 _____

代 表 者 氏 名 _____

団 体 の 区 分 [○は1つだけ]

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 福祉関係団体（当事者団体を含む） | 2. ボランティア団体・NPO 法人 |
| 3. その他（ _____ ） | |

※調査の記入者（役職等）の、連絡先を教えてください。また具体的なお話をお伺いするため、3月2日（金）午後1時30分～【場所：丸山公民館】で、意見交換会（各団体の代表者等（1団体当たり3名以内）に集まっていただき、地域の支え合い、助け合いの活動について何ができるか、一緒に考えていただく会）を予定していますが、ご参加いただけるかも教えてください。

ご記入者氏名 _____ 氏名) _____ 役職等) _____

連 絡 先 _____

TEL _____ FAX _____

E-mail _____

HP <http://www.> _____

意 見 交 換 会 _____ 1. 参加が可能 2. 参加は難しい (どちらか○をつけてください)

※ 意見交換会の「1. 参加が可能」に○を付けていただいた団体へは、後日、開催通知を改めて送付させていただきます。

問2. 貴団体の主な活動部門や内容はどちらですか。[あてはまるもの全てに○]

- | | | |
|----------------|-----------------|--------------|
| 1. 高齢者福祉 | 9. 交通安全・防犯 | 17. まちづくり |
| 2. 障害者福祉 | 10. 男女共同参画 | 18. 教育・生涯学習 |
| 3. 児童福祉 | 11. 地域交流 | 19. 青少年育成 |
| 4. その他社会福祉 | 12. 消費者問題 | 20. 芸術・文化の振興 |
| 5. 保健・医療・健康づくり | 13. 産業振興 | 21. スポーツ |
| 6. 人権問題 | 14. 清掃・美化 | 22. 調査・研究活動 |
| 7. 国際交流・平和貢献 | 15. ごみ・リサイクル | 23. その他 |
| 8. 防災 | 16. 自然環境保護・公害防止 | (_____) |

問 8. 貴団体では、活動を行う上で地域にある他の団体・機関等との交流や連携・協力関係がありますか。[あてはまるもの全てに○]

- | | | |
|--------------|--------------|----------------|
| 1. 市役所 | 8. 小・中・高等学校 | 15. 介護・福祉施設 |
| 2. 社会福祉協議会 | 9. PTA | 16. 医療機関 |
| 3. 行政区・班・組 | 10. NPO | 17. 警察・消防 |
| 4. 子ども会 | 11. ボランティア団体 | 18. 弁護士・司法書士 |
| 5. 当事者団体 | 12. 老人クラブ | 19. 地域包括支援センター |
| 6. 民生委員・児童委員 | 13. 観光協会 | 20. 地域づくり協議会 |
| 7. 保育園・幼稚園 | 14. 商工会 | 21. その他 () |
| | | 22. 特にない |

問 9. 問 8 で、協力関係があると回答した団体・機関等と、具体的にどのような関係がありますか。

問 10. 貴団体が活動を行う上で、困っていることはどのようなことですか。

[あてはまるもの全てに○]

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1. 活動のマンネリ化 | 7. 他の団体と交流する機会が乏しい |
| 2. 新しいメンバーが入らない | 8. 活動の場所（拠点）の確保が難しい |
| 3. リーダー（後継者）が育たない | 9. 活動資金が足りない |
| 4. 市民に情報発信する場や機会が乏しい | 10. メンバーの高齢化 |
| 5. 人々のニーズに合った活動ができていない | 11. その他 () |
| 6. 支援を必要とする人の情報が得にくい | 12. 特に困ったことはない |

問 11. 困っていることへの課題解決のためには、何が必要だと感じますか。

問 12. 困っていることへの課題解決のために、どのような団体・機関等と交流や連携・協力をしたいですか。[あてはまるもの全てに○]

- | | | |
|--------------|--------------|----------------|
| 1. 市役所 | 8. 小・中・高等学校 | 15. 介護・福祉施設 |
| 2. 社会福祉協議会 | 9. PTA | 16. 医療機関 |
| 3. 行政区・班・組 | 10. NPO | 17. 警察・消防 |
| 4. 子ども会 | 11. ボランティア団体 | 18. 弁護士・司法書士 |
| 5. 当事者団体 | 12. 老人クラブ | 19. 地域包括支援センター |
| 6. 民生委員・児童委員 | 13. 観光協会 | 20. 地域づくり協議会 |
| 7. 保育園・幼稚園 | 14. 商工会 | 21. その他 () |
| | | 22. 特にない |

問 13. 市民の方が気軽に活動に参加できるように、市民の方が貴団体の活動に単発で参加（一般参加）することは考えられますか。

1. 固定メンバーでの活動しか行えないため、そのような形は難しい
2. 活動の内容によっては、単発で参加（一般参加）してもらいものがある（あっても良い）
（例： ）
3. 常に単発の形（一般参加）で良いので、参加してもらえると助かる
（例： ）
4. その他（具体的に： ）

問 14. 貴団体が活動しているときに、活動部門以外の相談を受けたことがありますか。

- | | | | |
|-----------|---|---|---------------|
| 1. よくある | } | → | 問 15 にお進みください |
| 2. ときどきある | | | |
| 3. ない | | → | 問 16 にお進みください |

問 15. 【問 14 で「1・2」とお答えの方へ】

活動部門以外の相談を受けたとき、どのような対応をしましたか。

1. 相談内容を聞いて専門機関（市・介護施設・医療機関・社会福祉協議会等）と一緒に対応した。
2. 相談内容を聞いて専門機関（市・介護施設・医療機関・社会福祉協議会等）の連絡先を教えた。
3. 相談内容を聞かず専門機関（市・介護施設・医療機関・社会福祉協議会等）の連絡先を教えた。
4. その他 ()

問 20. 市の地域福祉を推進する組織として「社会福祉協議会」がありますが、ご存知ですか。

- | | | | |
|--------------------|---|---|---------------|
| 1. 活動（事業）や目的を知っている | } | → | 問 21 にお進みください |
| 2. 名前は知っている | | | |
| 3. ほとんど知らない | } | → | 問 23 にお進みください |
| 4. まったく知らない | | | |

問 21. 貴団体が活動していく上で、「社会福祉協議会」に望むことはありますか。

①～⑩のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。

事業名	とても必要	少し必要	あまり必要ではない	全く必要でない
①団体や活動についてのPR	1	2	3	4
②活動上必要な情報の提供	1	2	3	4
③活動場所の提供	1	2	3	4
④会員募集の支援	1	2	3	4
⑤リーダーの養成支援	1	2	3	4
⑥経済的支援（活動資金など）	1	2	3	4
⑦他団体とのネットワーク化	1	2	3	4
⑧団体運営上の助言	1	2	3	4
⑨設備、備品の充実	1	2	3	4
⑩成果発表の場の提供	1	2	3	4
⑪その他	（具体的に記入してください。）			

問 22. 今後「社会福祉協議会」と協働でしたい活動・取組について、具体的な内容があれば、お書きください。

地域についておうかがいします

問 23. 活動を通じて感じる、地域の問題点や課題はどのようなものですか。

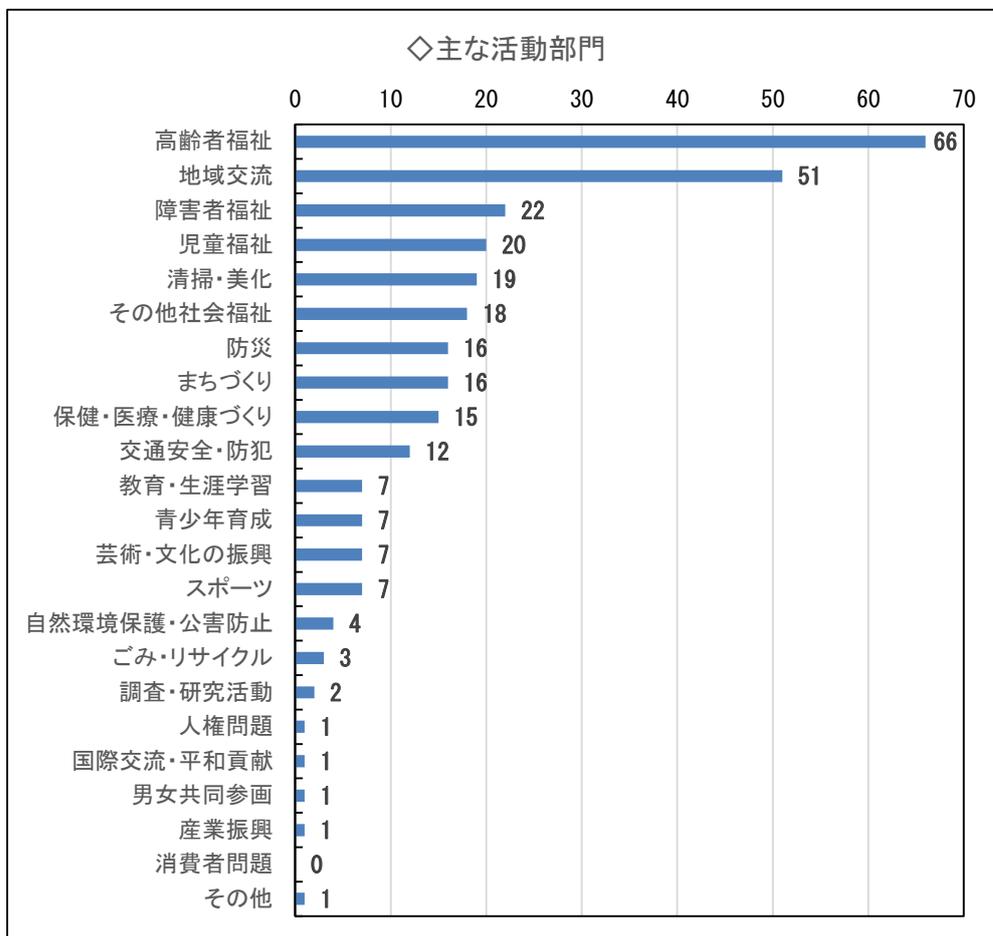
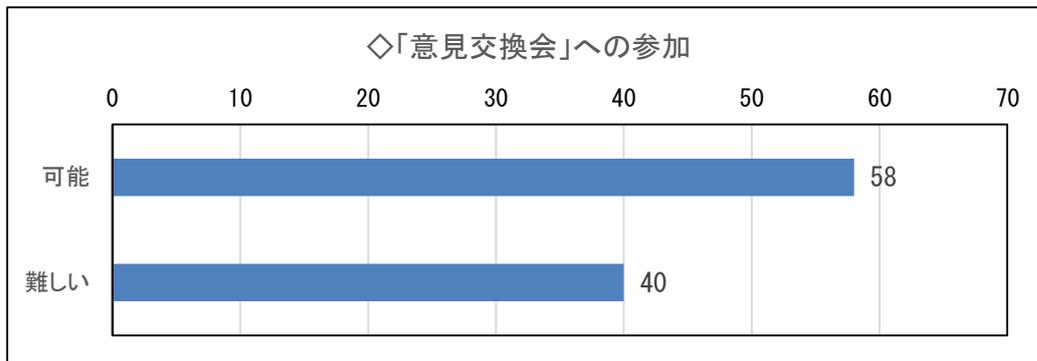
[あてはまるもの全てに○]

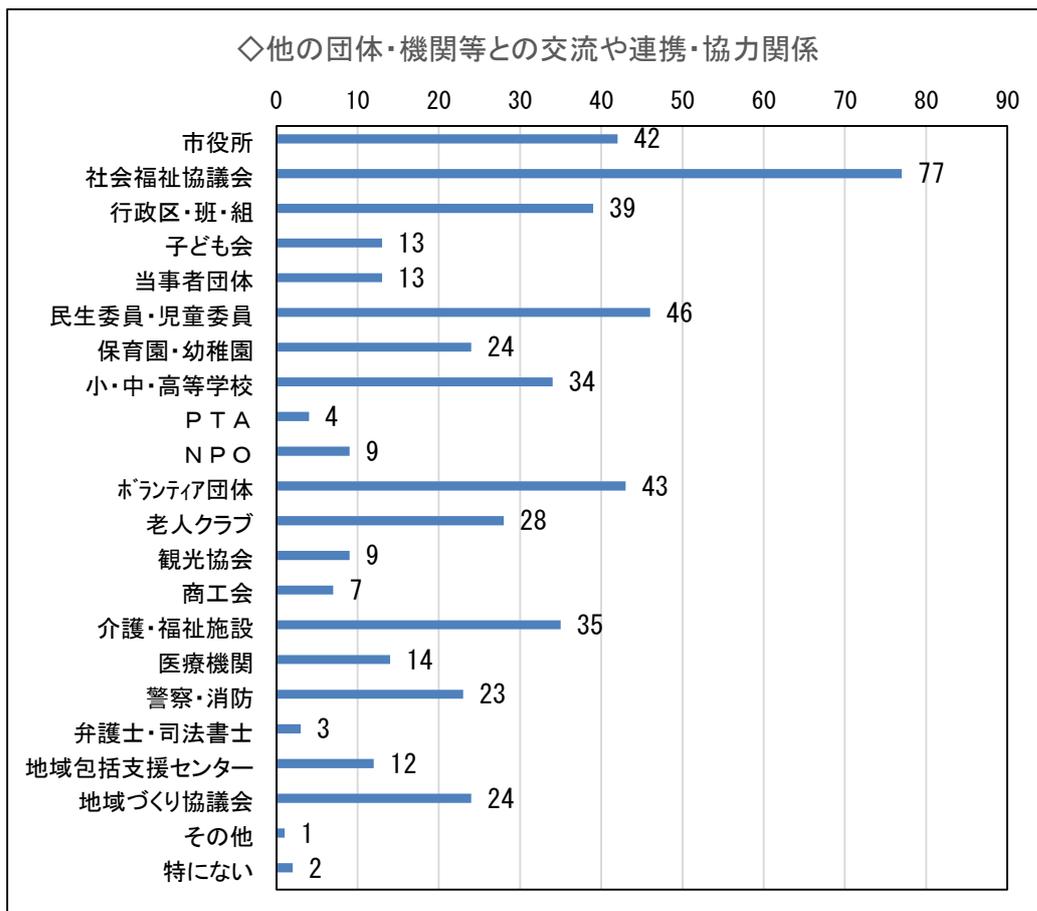
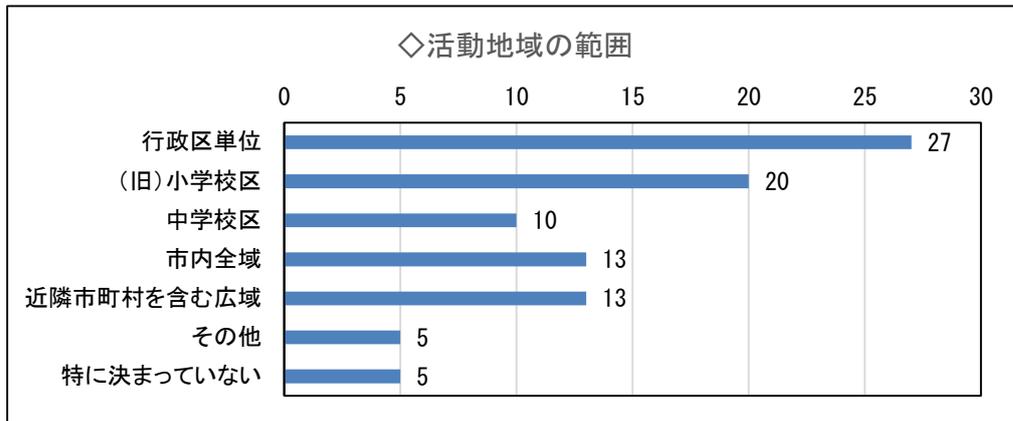
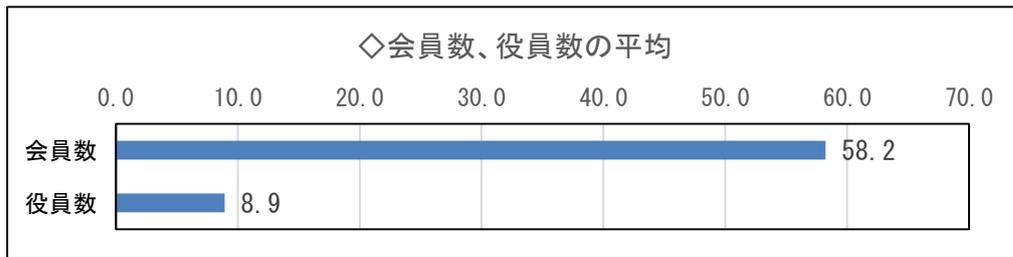
- | | |
|------------------------------------|--|
| 1. あいさつをしない人が多い | 10. 地域の中で気軽に集まれる場が少ない |
| 2. 犯罪の増加 | 11. 障害者に対する理解が不足している |
| 3. 交通マナーの乱れ | 12. 健康に対する意識が低い |
| 4. 道路のゴミが増えた | 13. 高齢者世帯やその他支援が必要な方の住まいなどの情報が手に入りにくい |
| 5. 地域での子どもの見守りがなされていない | 14. 児童や認知症高齢者などの虐待が疑われる家庭があってもどのように対応したらいいか分からない |
| 6. 子どもや高齢者、障害者に対する虐待を見た
り聞いたりする | 15. 大規模な風水害や地震時の避難と安否確認等
防災対策に不安がある |
| 7. 隣近所との交流が少ない | 16. その他 () |
| 8. 世代間の交流が少ない | |
| 9. 地域の活動が不活発である | |

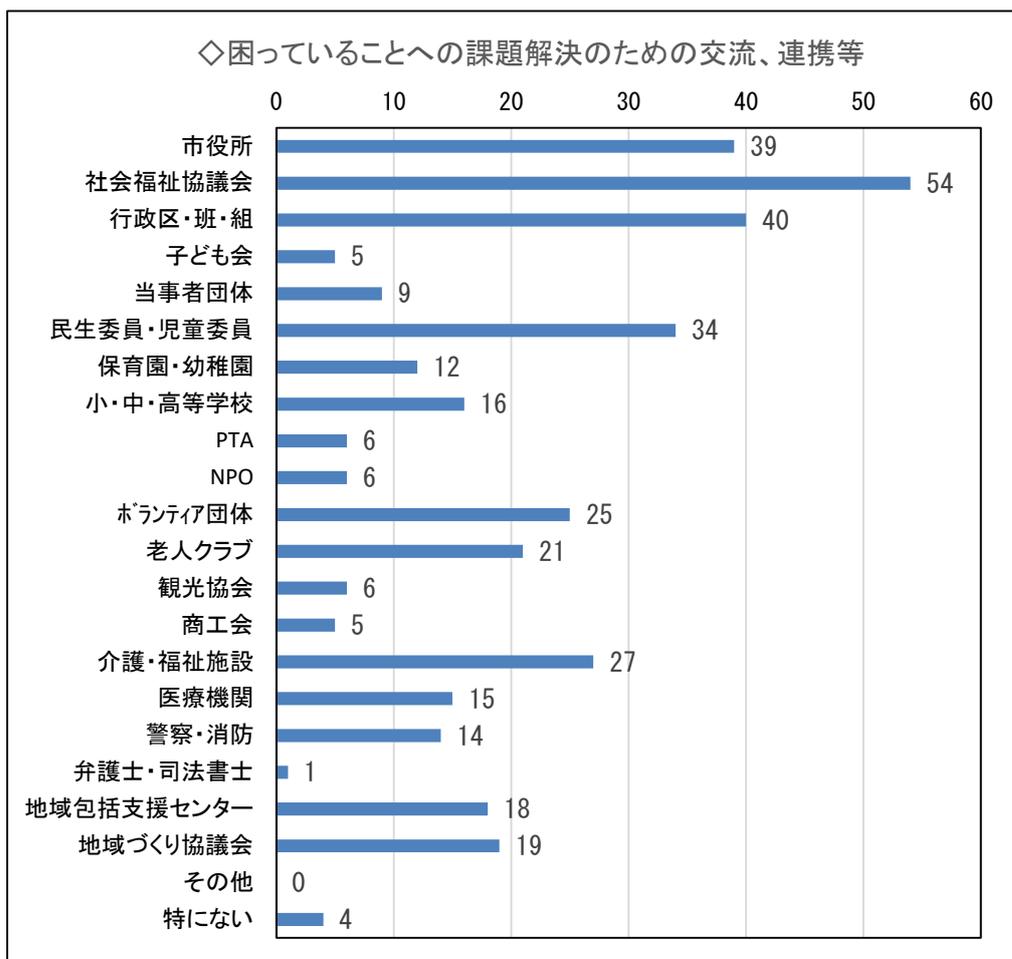
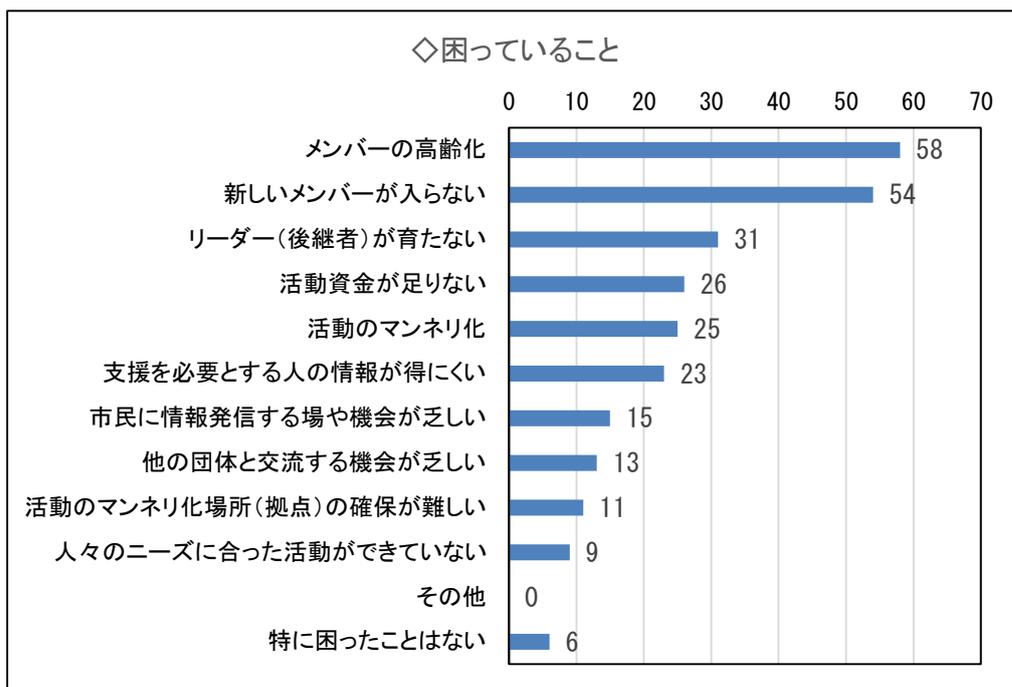
問 24. 身近に困っている人がいるとき、貴団体としてどんな手助けができますか、又はできそうですか。現在の活動状況に限定せず、できること、やりたいことをお答えください。[あてはまるもの全てに○]

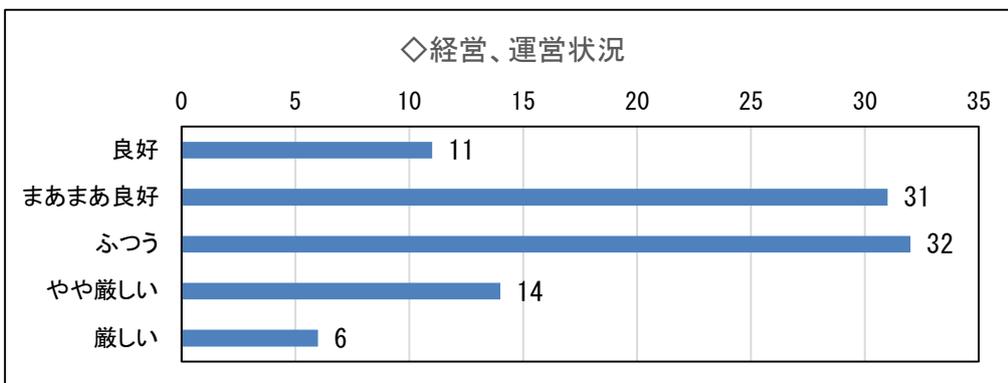
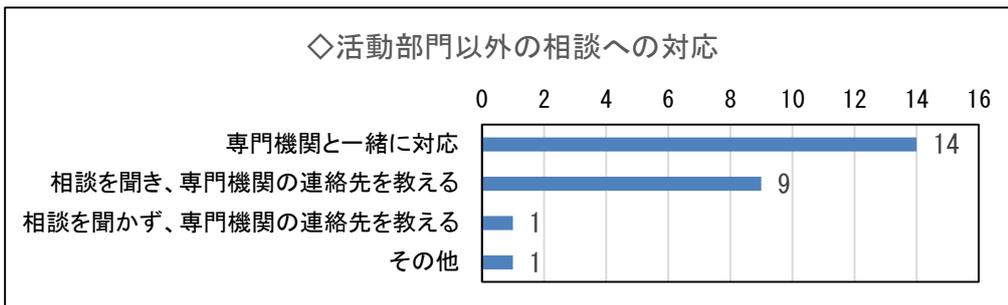
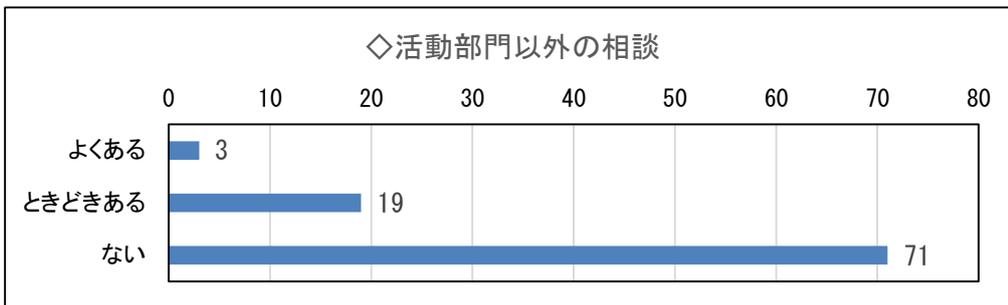
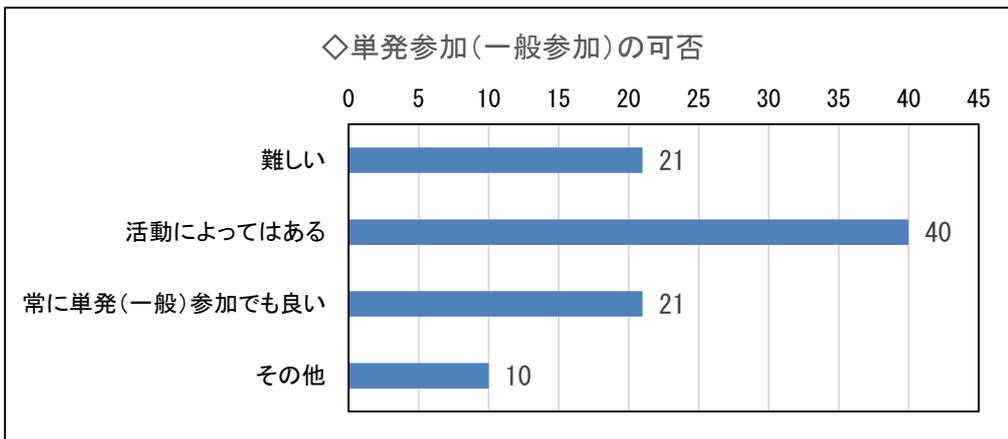
- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. 近隣への声かけや安否確認 | 7. 話し相手 |
| 2. ごみ出し | 8. 書類の確認や各種手続きの代行 |
| 3. 買い物の手伝い | 9. 家事援助（食事作りや掃除など） |
| 4. 子どもの預かり | 10. 電球や蛍光灯などの交換 |
| 5. 保育園や習い事への送り迎え | 11. 草取り（草刈り）や庭の手入れ |
| 6. 病院への付き添いなど外出の
手伝い | 12. その他 () |
| | 13. できることはない・頼まれてもしたくない |

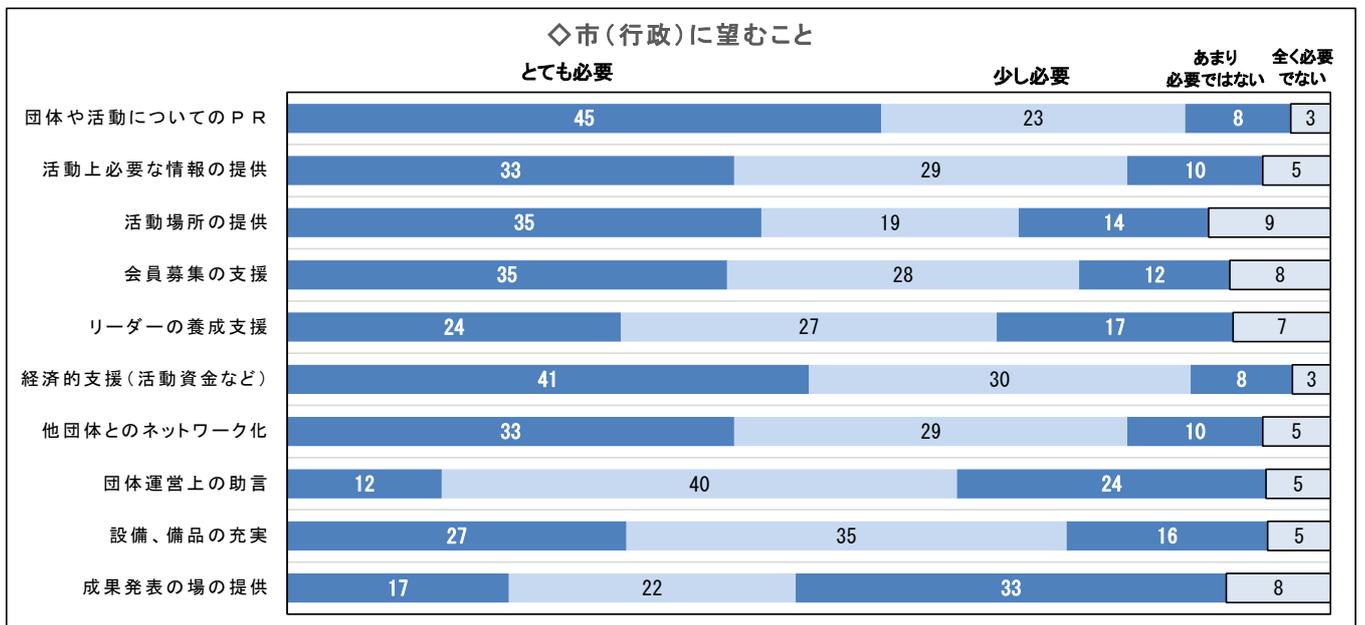
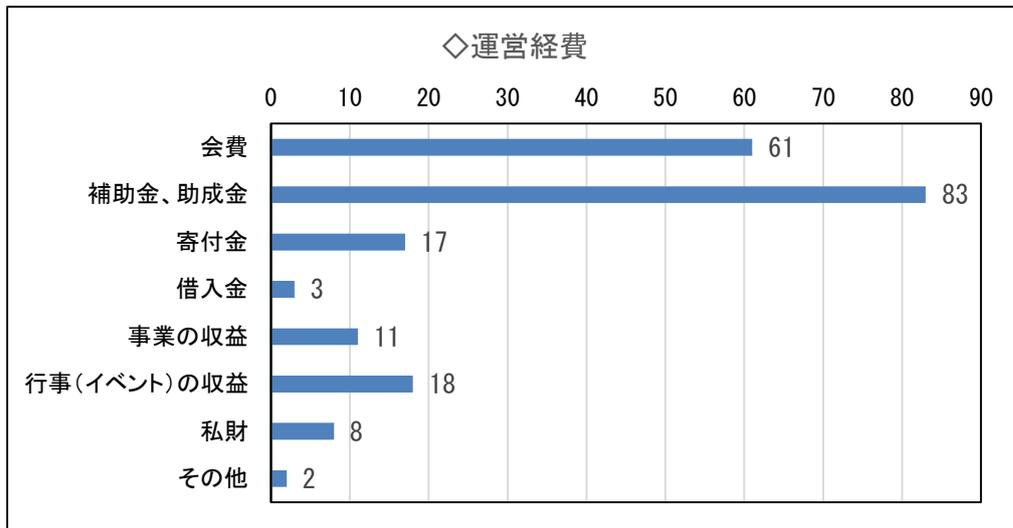
◆「団体意見交換会」事前アンケート調査結果

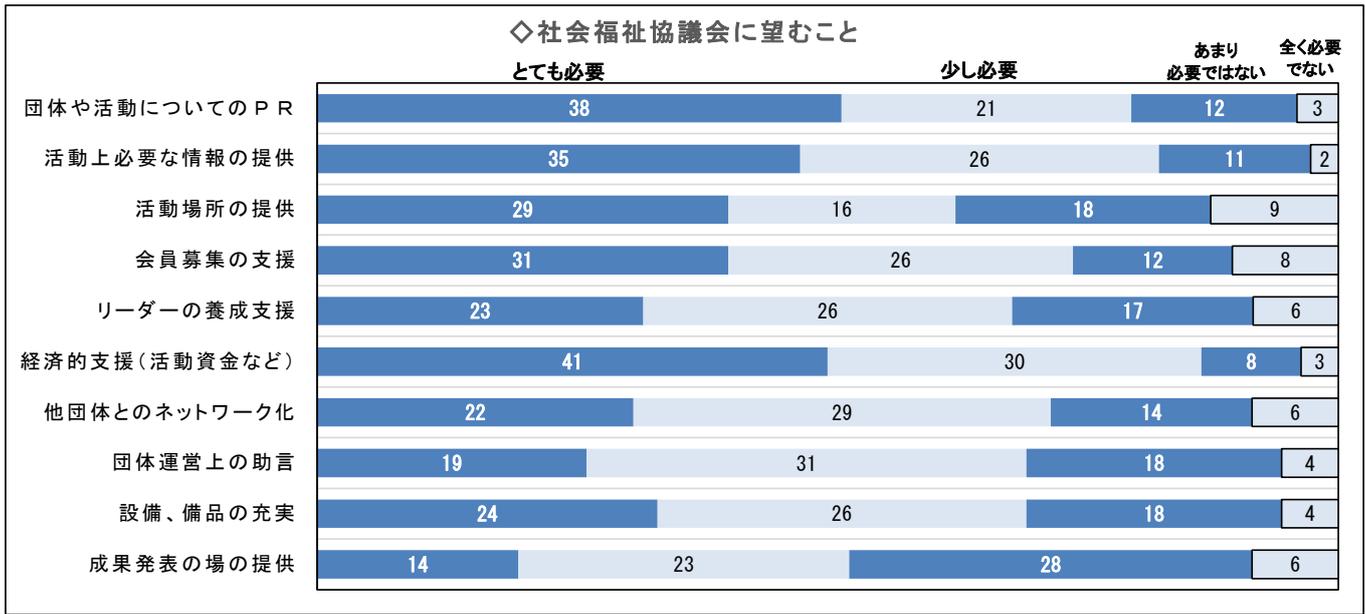
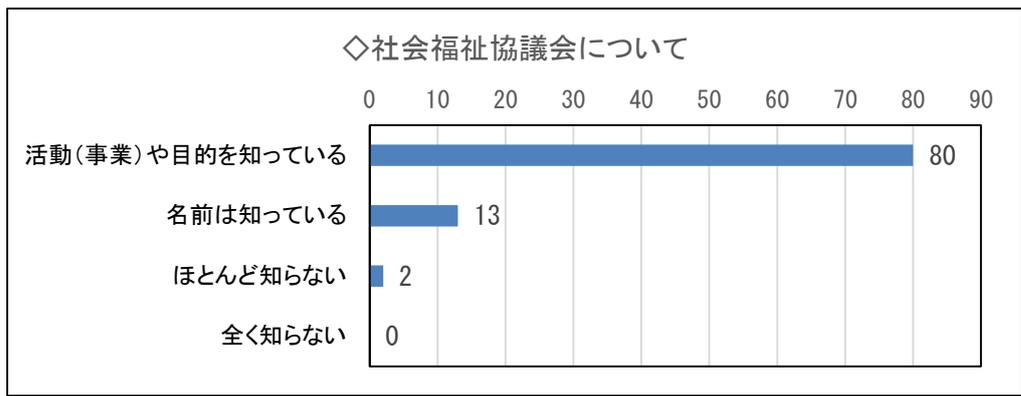




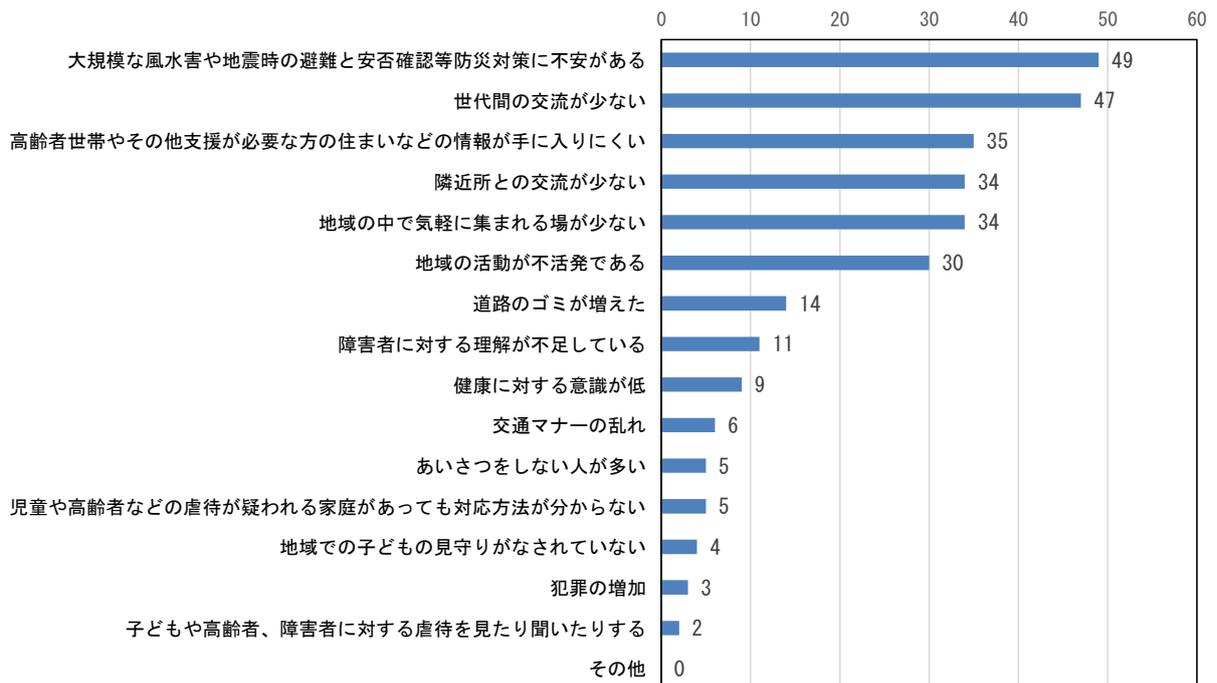




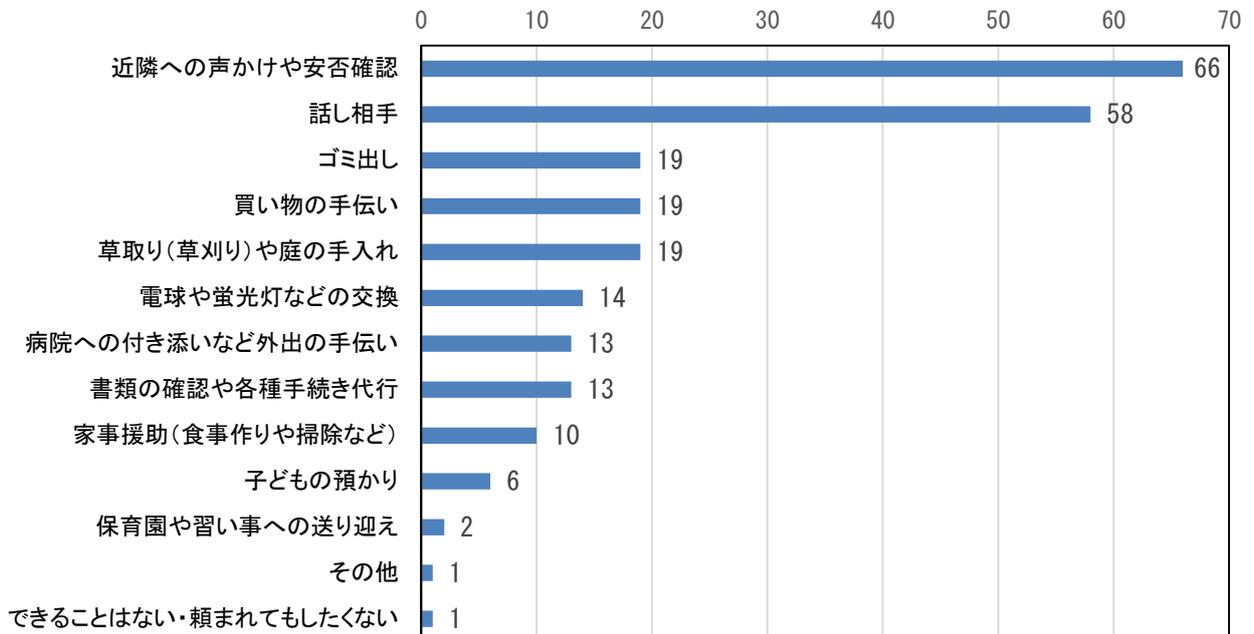




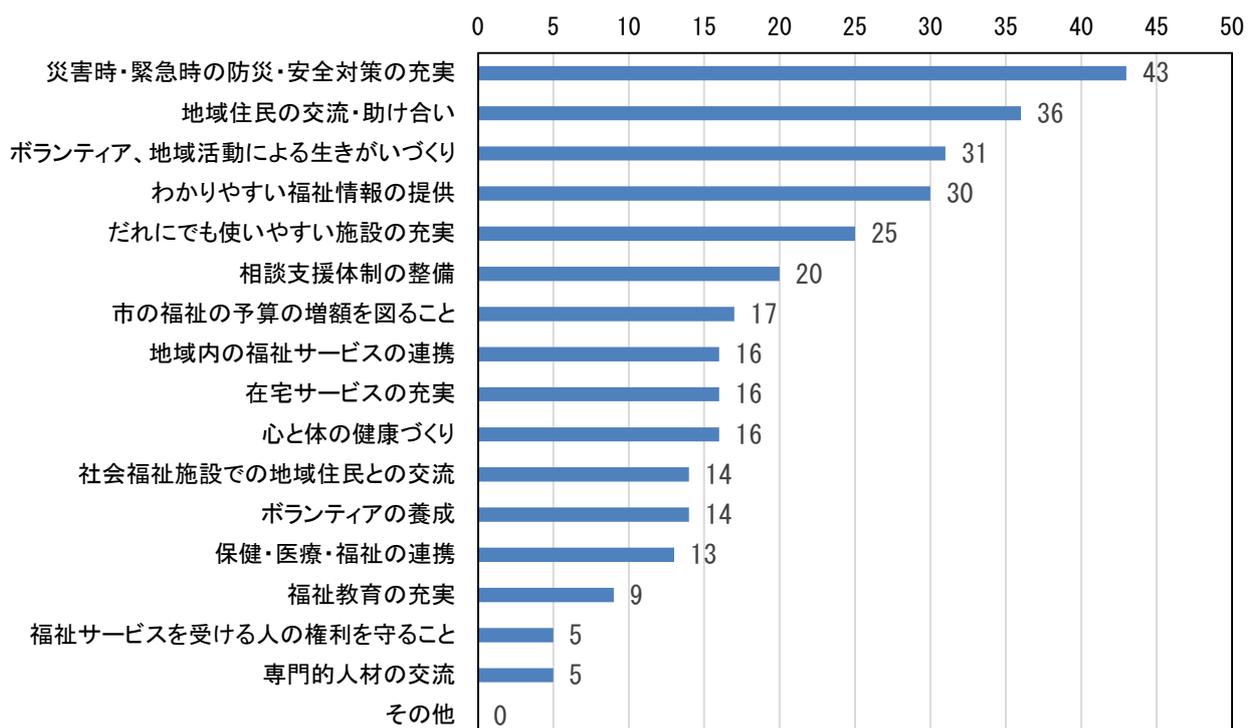
◇地域の問題点、課題



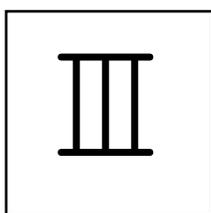
◇困っている人への手助け



◇重点的に進めるべき取り組み



第



編

当事者団体ヒアリング

第 1 章 調査の概要等

第1章 調査の概要等

1 調査の目的

『(仮称)南房総市地域福祉計画・地域福祉活動計画』の策定に向け、その一環として市内で活動する団体のメンバーが「地域」のどのようなことを問題点・課題と考えているのか、またそれらの解決・改善のために団体として取り組んでいる内容や支援に対する希望等について把握し、計画に反映させることを目的とする。

2 調査の方法

- ・調査対象：①市内の各「老人クラブ」(「老人クラブヒアリング」)
②市の「心身障害者(児)福祉会」(「心身障害者等福祉会ヒアリング」)
- ・実施時期：①老人クラブヒアリング …平成31年3月20日(水)
②心身障害者等福祉会ヒアリング… 同 4月19日(金)

3 開催概要

- ①老人クラブヒアリング…午前9時30分～11時20分 於千倉保健センター 参加者数：29人
- ②心身障害者等福祉会ヒアリング…午前11時30分～午後0時30分 於魚赤 参加者数：18人

第2章 開催結果のまとめ

第2章 開催結果のまとめ

I 老人クラブヒアリングからの課題・意見・要望等のまとめ

富浦地区

- クラブのメンバーや、役員のなり手も不足している。
- 「買い物難民」の問題が深刻。また、通院も大変⇨市のバスを、送迎バスとして使えないか。
・『アイリスの里』の好事例がある。
- 路線バスの路線が途切れている箇所があるが、何とかつなげてほしいと思っている。

富山地区

- バスの路線の問題に関しては、“バス停まで(どうやって行くか)”の問題もあり、工夫が必要で、現在いくつかトライしている。
- 「ノンステップバス」の導入を促進してほしい。
- また、「ボランティア輸送」を、今後もっと広げられないだろうか。
- 今後「成年後見(人)制度」の活用が、銀行や年金の引出しの手続き等に必要になってくると考えられる。
- 「介護予防」の課題があるが、鋸南町で成功事例があり、OB・OGも含めた市の職員に導入をお願いしたい。
- 小学校の跡地を、“救急医療の拠点”にしてほしい(医療器具、ベッド、リヤカー等を入れて)。

三芳地区

- 所謂「独居老人」が増加して、買い物などの場面で苦勞している。
特に女性の独居が多く、運転免許証を返納した後は本当に大変である。
- 老人クラブも存続の危機の段階に入っている。⇨若い人たちは、そういうことに対する考え方も自分たちの世代とはそもそも少し違っているように思う。
- 存続に向け「補助金をもらおう」という考え方もあるが、補助金は、もらおうと役所への書類の作成・提出などの事務も大変
- 生協のサービスについては、パンフレット類が多過ぎて、却って選びにくい。

白浜地区

- 会員増を図りたいが、⇨他の会との重複加入だったりすると、会費等も大変
- 社協や区長(、市)にも応援してほしい。
- 活動も、「会費」だけでは厳しい。活動の補助(金)をいただきたい。
- 役員等のなり手の不足も課題
- 災害時に向けた備えに関して、動けない人にも避難訓練に参加していただくことが重要と思うので、それが可能となる環境づくりを。

千倉地区

- 組織の強化と活性化について、区長会に支援をお願いしたい。

↓↑

- 区長（会）との連携でクラブの再生に成功した事例があり、その連携は重要である。→全市的に
広げられないか、と考えている。
- 26区中、8区で先駆的な取り組みが行われている。
- 市民の「教育」も必要だと思う。…市民の集会へ、市や社協の職員が出向いて説明等すると良い
のではないかな。

丸山地区

- 過疎化が進み、病気の際などは大変
- 健康相談、リハビリ、(各種)詐欺対策の講話などを、「サロン」での茶話会で行っている。

和田地区

- 買い物・病院への外出については、当地区でも問題となっている。
- 「老人会」は、14の行政区のうち7団体のみにしか無く、課題である。←会長のなり手がいない
ことも一因。
- 他地区における成功例を参考にしたいと思う。
- 会員の友達の方に個別に話して新規会員になっていただくという方策があり、結構有効である。

Ⅱ 心身障害者等福祉会ヒアリングからの課題・意見・要望等のまとめ

【団体に入っていて良かったと思うこと／団体としての課題と解決・改善策】

- 福祉会があるお蔭で仲間ができて楽しい（花見、バーベキューなど）。
- 役員の引き受け手がいない。
- 会員の減少＝若い会員がいない。

【地域生活での課題と解決・改善策など】

- 若い人が少ない＝働く場所の確保が不可欠。
- 独居が多く具合が悪くなった時に心配。
- あると安心できる「緊急通報システム」があることを知らなかった。→福祉サービス等の情報提供が欲しい。「配食サービス」、「移送サービス」等についても同様。

【外出・移動等について】

- 移動手段が無くて、困っている。
- 「移動販売」を利用している。
- 移動販売では、欲しいものが（置いていなくて）買えない。
- 生協のサービスは、ゆっくり選べる。
- 社協の移送サービスは、必要な時にすぐは使えない。
- 社協の移送サービスの充実を望む。
- 友人・知人に頼んで外出支援してもらっている。
- 「タクシー券」は良いのだが、タクシー自体が高額。代替の移動手段が必要。

【その他、要望など】

- 「老人クラブ」が元気だと「福祉会」も元気になれる。
- 会員が減少しているが、「会への加入は恥ずかしい」と言っている発言を聞いたりするとがっかりする。
- 計画の策定に際しては、必ず「住民代表」の委員を入れてほしい。

【開催風景】

○ 老人クラブヒアリング



○ 心身障害者等福祉会ヒアリング



第

IV

編

各調査結果からの課題の
まとめ

課題のまとめ

I 課題①：みんなで地域のつながりをつくる

<市民アンケート>

- ・今後、地域福祉を推進していくために「市・民間・地域住民が協力して取り組む」ことが必要と考えるとした回答が半数弱で、最も多い。
- ・〔自由記入内容より〕
 - 外に出た時はなるべく笑顔で声かけをしております。組織の中で動くのは苦手ですが個人でできる事は協力致します。
 - 「高齢者健康麻雀大会」の実施等、楽しみや生きがいづくりを。

<団体アンケート・団体意見交換会>

- ・メンバーの高齢化と新メンバーの加入者がいないことが課題である。
- ・民生委員の方など、詳細な情報をお持ちではないかと思うので、協力関係ができれば、もっと活動が広がるのではないかと。
- ・団体の横のつながりが無い、他団体の活動内容が分からない。
- ・団体の情報公開と情報共有が必要なので、団体同士をつなぐシステムが欲しい。
- ・活動が分かるような団体名簿の作成
- ・他団体との交流
- ・活動資金の確保、補助金の増額
- ・事務作業の簡素化

<当事者ヒアリング>

- ・活動への補助金が欲しい。
- ・もらうとなると補助金の手続きが大変。
- ・「団体があるので仲間ができて楽しい」との、団体の重要性を指摘した声があった。

II 課題②：地域の様々な分野の機関とつながり、活動する

<市民アンケート>

・〔自由記入内容より〕

○公民の専門家が活動できる環境をつくり、市民に安心を与えることが必要だと思います。

○もし行ってお手伝いなどをしてみたいな～などという活動があれば参加したいし、協力したいですね。市も遠慮しないで市民に手助けをお願いすればいいんですよ。お金はないけど協力することは沢山あるはずですよ。

<団体アンケート・団体意見交換会>

・福祉以外の、例えば「地域づくり協議会」、「観光協会」等と既に交流、連携・協力していると回答した団体が一定数みられる。

〔具体例〕

○市役所から人的・経済的な支援を受けている。ボランティア団体や他の地域づくり協議会とはイベントなどで連携している。

<当事者ヒアリング>

・区長会との連携

Ⅲ 課題③：地域交流の場をつくる

<市民アンケート>

- ・地域活動等の活発化のために大切と思うこととして、「困った時の助け合いの関係を深めること」「顔見知りの関係を広げること」を挙げた回答が多い。
- ・〔自由記入内容より〕
 - 老夫婦2人暮らしのため子育て世代の方との接点が少ない。子供から高齢者まで様々な世代が交流できるような取り組みはできないかと考えている。
 - 趣味の活動の場が少なく困っている。廃校の教室、体育館を市民の施設として活用させてほしい。

<市民意見交換会>

【困りごと】

- ・近くに集まれる場所がない。
- ・近所づきあいが少ない。
- ・コミュニケーションが少ない、話し相手がいない。
- ・どんな人が住んでいるのか分からない。
- ・世代間ギャップが大きい。
- ・地域の行事が減ってきている。

【自分達でできること】

- ・地域のコミュニティ施設の活用
- ・日常的、積極的な声かけ
- ・小地域での高齢者の交流の場をつくる。

【行政や社協でできること】

- ・交流の場の情報提供
- ・地域住民が集う場所の提供
- ・イベント等の開催
- ・サロンに補助金

<団体アンケート・団体意見交換会>

- ・地域の問題点・課題として、「世代間交流が少ないこと」が最も多く挙げられている。
- ・「拠点（コミセン）も少し自由に使わせてほしい。」との回答があった。
- ・「高齢者の集いの場として活動していますが、同様の活動を行っている団体等ありましたら情報交換を行うことができれば良いと考えています。そのような機会があったらお知らせしていただきたい。」との回答があった。
- ・各地区単位での高齢者の集う場所づくり
- ・小地域での交流の場の提供(区単位での集会所の開放)

<当事者ヒアリング>

- ・健康相談、リハビリ、(各種)詐欺対策の講話などを、「サロン」での茶話会で行っている。

IV 課題④：災害に備えた地域の連携体制を強化する

<市民アンケート>

- ・「福祉のまちづくり」推進のため重要と思うことの（2位と僅差の）第3位は「災害時・緊急時の防災・安全対策の充実」となっている。
- ・〔自由記入内容より〕
 - 災害避難場所が遠方でしかも当地区は1箇所のみ放送なので細やかな配慮をしていただきたい。
 - 災害時の避難所へと連絡されても、夜とか自力では行けない。

<市民意見交換会>

【困りごと】

- ・避難場所がどこか分からない。
- ・誰が支援を必要としているか分からない。
- ・避難所に行くのが難しい(遠い、移動が困難)。
- ・情報伝達が不安。
- ・高齢者や障害者は訓練ができていない(参加できない)。
- ・備蓄品が不十分(量・内容)。

【自分達でできること】

- ・避難経路の確認
- ・平常時から声かけ、見守りをする。
- ・役割分担を決めておく。
- ・各自で備蓄品を確保しておく。

【行政や社協でできること】

- ・避難場所の周知
- ・情報発信、情報提供
- ・避難所の確保、整備
- ・備蓄品の保管場所の周知
- ・十分な備蓄
- ・地区ごとの支援体制づくり

<団体アンケート・団体意見交換会>

- ・津波カプセル（「てんでんこ」）、多目的防災家具のPRで社会福祉協議会と連携している。

<当事者ヒアリング>

- ・動くことができない人も避難訓練に参加できる環境づくり

V 課題⑤：外出に困らない地域をつくる

<市民アンケート>

- ・自由記入式の質問への回答（書き込み）として、非常に多くの意見、要望等が寄せられている。特に買い物、通院のための外出・移動についてなど。

[具体例]

- 返納免許、エリア限定案で維持。
- 病院の送り迎えが困っています。

<市民意見交換会>

【困りごと】

- ・買い物する店や病院等がない、少ない、遠い。
- ・公共交通機関や交通手段がない、少ない。
- ・車が運転できなくなったときに不安。

【自分達でできること】

- ・隣近所や身近な人が送迎する。
- ・声をかけあって一緒に行く。
- ・スーパーやコンビニの宅配サービスを利用する。

【行政や社協でできること】

- ・バスの充実(路線、便数)
- ・移動販売車の充実
- ・タクシーの運行
- ・移送ボランティアの拡充
- ・移送サービスの規制緩和

<団体アンケート・団体意見交換会>

- ・活動や居場所のための送迎が必要
- ・移動手段の確保(市のボランティアバスの活用)
- ・買い物、病院通いへの支援
- ・通学用や施設のバスの活用(利用していない時間帯に、運転手付きで)

<当事者ヒアリング>

- ・ボランティア輸送の拡大
- ・路線バスの充実(ノンステップバスの導入、途切れている路線をつなぐ)
- ・買い物や通院などにおける市のバスの活用
- ・バス停までの移動の問題

VI 課題⑥：福祉活動への意識を高め、担い手を増やす

<市民アンケート>

- ・〔自由記入内容より〕
- 高齢者の方の買い物代行などを有償でできたらいいなと思います。
- ボランティア活動をしたいが、地域でどのような活動をしているか、情報が少ない。
- 地域福祉に関心の無い方々に福祉について耳を傾けてもらえる環境づくりが必要かと思えます。

<団体アンケート・団体意見交換会>

- ・男性が少ない。
- ・担い手、後継者、役員のなり手不足(メンバーの高齢化)
- ・一般市民に我々の存在、目的、活動などを理解してもらえるよう努力する。そして自分も一度参加してみようかな、とならないか？
- ・小中学校で、福祉教育により力を入れていただき、障害者への理解を深めてほしい。
- ・他人事として考えている。
- ・地域の活動に参加すると何かに還元できる仕組みの構築
- ・市民教育によって、市民全員に協力してもらおう。

<当事者ヒアリング>

- ・クラブのメンバーや役員のなり手不足
- ・他地区の成功例を参考にしたい。
- ・市民の集会へ市や社協の職員が出向いて説明等をする。

Ⅶ 課題⑦：最期まで自分らしく過ごせる地域をつくる

<市民アンケート>

・〔自由記入内容より〕

- 国民年金だけになった時、生活していく事ができるのか。1ヶ月にかかる費用は…？
- 地区内での道路がせまく、対向車が来た場合に不安。
- 近所におじいさんが1人で暮らしていて足が悪いようですが、自転車で出かけています。いつも見かけると心配になります。近所の人と交流もなさそうな様子です。声をかけてあげられたら…と思いますが、なかなか難しいです。

<市民意見交換会>

【困りごと】

- ・一人暮らしの高齢者が多い。
- ・見守りをどこまでしていいかわからない。
- ・一人暮らしの高齢者の方が多く、見守りが十分にできない。

【自分達でできること】

- ・あいさつ、声かけをする。
- ・見守り活動を行う。
- ・情報共有

【行政や社協でできること】

- ・見守り研修を行う。

<団体アンケート・団体意見交換会>

- ・子どもや独居老人の見守りを行っているが、個人情報保護法で個人情報が分からないため、パトロール活動が拡げられない。

Ⅷ 課題⑧：心身の健康づくりに取り組み、健康寿命を伸ばす

<市民アンケート>

・〔自由記入内容より〕

- 各部落の公民館など（お年寄りが歩いて行ける場所）で介護予防体操。
- 在宅介護をする側の心と体のケアをしていただきたい。

<団体アンケート・団体意見交換会>

- ・15団体が、「保健・医療・健康づくり」を主な活動部門としている旨回答している。
- ・「高齢化社会に向けて、いつまでも元気な身体を保っていけるように体力面の強化を行っていく。」との回答があった。

<当事者ヒアリング>

- ・介護予防の他自治体の事例を取り入れる。
- ・小学校の跡地を“救急医療の拠点”にしてほしい。

Ⅸ 課題⑨：子育てしやすい地域をつくる

<市民アンケート>

・〔自由記入内容より〕

- 子どもたちが気軽に皆で集まれる公園（遊具の充実した）がまったくないので、大変困っています。
- 近所に子どもの遊び場がないので、1つや2つでもいいので固定遊具があるといい（旧岩井小辺りで）。

<市民意見交換会>

【困りごと】

- ・子どもの遊べる公園が少ない。
- ・子どもが少なく、遊ぶのが難しい。
- ・近所でなかなか会って話す機会がない。
- ・子育て世代の働く場所がない。
- ・保育園に預けられない。

【自分達でできること】

- ・地区団体(子供会)活動の活発化
- ・「子ども食堂」の開催

【行政や社協でできること】

- ・経済面での支援(医療費や学費の補助)
- ・保育サービスや学童クラブの充実
- ・子どもが安心して遊べる場の設置
- ・若い人の就労の場を増やす。

<団体アンケート・団体意見交換会>

- ・新しく丸山地区で子ども達の見守りのボランティアを募集しなければいけない。

X 課題⑩：一人ひとりに寄り添う相談体制をつくる

<p><市民アンケート></p> <ul style="list-style-type: none">・「福祉のまちづくり」推進のため重要と思うことの第1、2位が「わかりやすい福祉情報の提供」「相談支援体制の整備」となっている。・〔自由記入内容より〕○相談受付窓口の一本化を。○問34で社会福祉協議会の活動を初めて知ることがありました。もう少し広く知らせたいです。
<p><市民意見交換会></p> <p>【行政や社協でできること】</p> <ul style="list-style-type: none">・高齢者サービスの情報提供
<p><団体アンケート・団体意見交換会></p> <ul style="list-style-type: none">・私達の行っている活動について、全く知らない方が大部分であり、ボランティアまつり等でパネル展示をしても、それを見に来る方が限られた方々なので、もっと一般の方に広く発信したい。・困ったときの相談場所を市民に分かりやすくする。・市からの情報提供(スマートフォンへ)
<p><当事者ヒアリング></p> <ul style="list-style-type: none">・生協のサービスはパンフレット類が多く、選びにくい。・健康相談、リハビリ、(各種)詐欺対策の講話などを、「サロン」での茶話会で行っている。・移送サービスの充実を望む声が出されている。

XI 課題⑪：困り事を抱える人をみんなで支える

<p><市民アンケート></p> <ul style="list-style-type: none">・地域の出来事として「高齢者への虐待」等を聞いたことがあるという回答が1割近くみられる。・日常生活での困りごと、悩みとして最も多かった回答は「将来の生活に関すること」である。〔自由記入内容より〕○最近よく都会では「子ども食堂」をやっているという話をききます。南房総市ではそのような対象になる子はいないのかな、と思いました。
<p><市民意見交換会></p> <p>【困りごと】</p> <ul style="list-style-type: none">・困っているとわかっていても介入しにくい。
<p><団体アンケート・団体意見交換会></p> <ul style="list-style-type: none">・私ももうすぐ66歳、学校、地域の見守りをやって20年。子ども達と仲良く接していますが地域の人は不審者に思われるのを恐れ、登下校中の児童に気軽に声をかけられない世の中です。残念な思いです。・若くても支援が必要な人に対する、多機関の連携による支援
<p><当事者ヒアリング></p> <ul style="list-style-type: none">・成年後見制度の活用

XII 課題⑫：地域で生活するための環境を整える

<市民アンケート>

・〔自由記入内容より〕

○企業誘致し働き口の確保を行政主体で行ってほしい。

○Uターンで南房総市に帰ってきて7年。子どもも夫もない独身者です。帰ってきて困ったのは仕事が無い事。

○住宅の老朽化や日常生活排水の不備で困っている。

<市民意見交換会>

【困りごと】

・働く場所が少ない。

【自分達でできること】

・観光スポットをつくる。

【行政や社協でできること】

・企業の誘致

・空き家の有効活用

<当事者ヒアリング>

・若い人が少ないという課題があるが、それは仕事が少ないことと直結しているため、「働く場所の確保」を求める意見があった。

(仮称)「南房総市地域福祉計画・地域福祉活動計画」策定
基礎調査報告書

令和元年6月

発行 千葉県南房総市

企画・監修 南房総市 保健福祉部 社会福祉課/

社会福祉法人 南房総市社会福祉協議会

アンケート調査集計・分析 株式会社 アイアールエス